シャワー・ド・バス
（後付けタイプ）
〔NYS-3B-AT-WL
NYS-3B-AT-WR〕
取付説明書

取付店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。
また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

注意

各機器に同梱されている取扱説明書は、お客さまに製品を正しく使用していただくための重要な書類です。
取付け完了後、お客さまの手元へ届くように取付責任者に依頼またはお渡しください。

取付前の注意

●取付前に「シャワー・ド・バス（後付けタイプ）事前チェックシート」（別紙）にて必ず設置可否の判定を行ってください。
●取付けに際しては、必ずこの取付説明書に従い正しく取り付けてください。

取付作業にあたっての注意

●作業は手袋着用の上行ってください。金属部品等の端部は取扱いにご注意ください。
●シャワー・ド・バス外装部材は可燃物です。タバコの火、バーナー等の火気に気をつけてください。

安全上のご注意　（必ずお守りください）

ここでは取付けに際して守らないと人身事故や、家財の損害に結び付く注意事項をあげています。取付前にこの項目をよくお読みいただき、正しく取り付けてください。

表示マークおよび絵表示の説明

◎**表示マークについて**

表示内容を無視して誤った工事をしたときに生じる、危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **警告**	「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
⚠ **注意**	「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

◎**絵表示について**

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	「注意しなさい！」（上記の『警告』、『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）
	「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
	「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）
	「分解してはいけません！」（分解禁止の記号です。）

ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や家財の損害に結び付くものです。
安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠ 警告

当社指定の修理技術者以外の人は絶対に分解したり修理、改造は行わないでください。 ※機器の発火や異常動作でケガをする恐れがあります。	
湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	

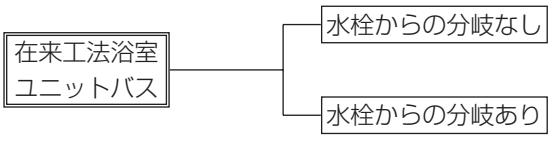
⚠ 注意

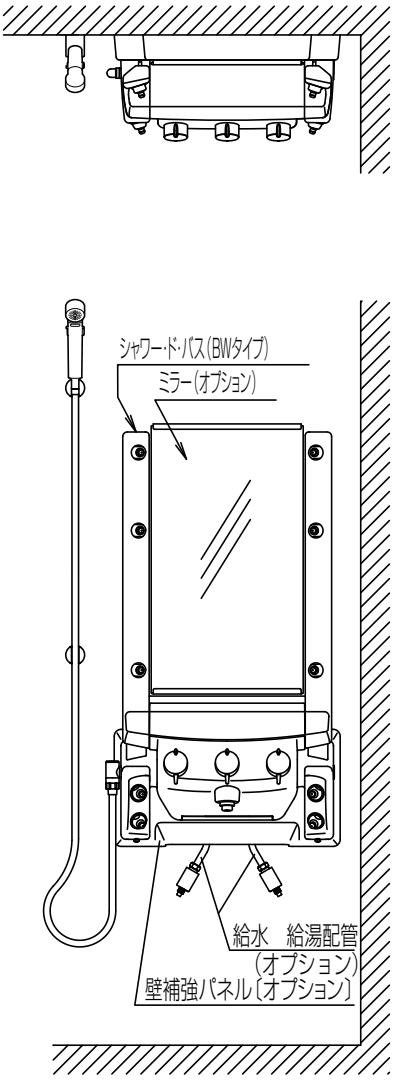
構成部材は指定位置に、指示したねじ等で確実に取り付けてください。 ※使用中に落下したり外れたりして、ケガをする恐れがあります。	
給水・給湯管、排水管等は、取付説明書どおり確実に取り付けてください。 ※漏水の恐れがあります。	

1. 商品構成について（必ずお読みください）

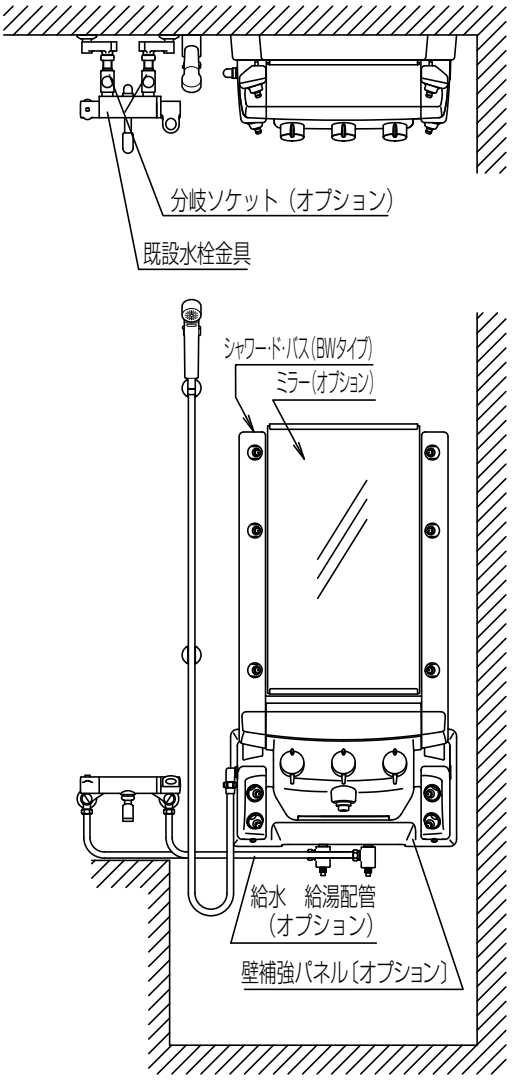
本製品は現場の状況に応じて取付方法が変わります。本取付説明書では下記で説明します、「タイプ」と「分岐なし／あり」の表記を使用して説明していきますのでよくお読みください。

●既設の水栓金具の位置によってシャワー・ド・バスまでの配管経路が変わります。
「水栓からの分岐なし」の場合と**「水栓からの分岐あり」**の場合です。（下図を参照してください）





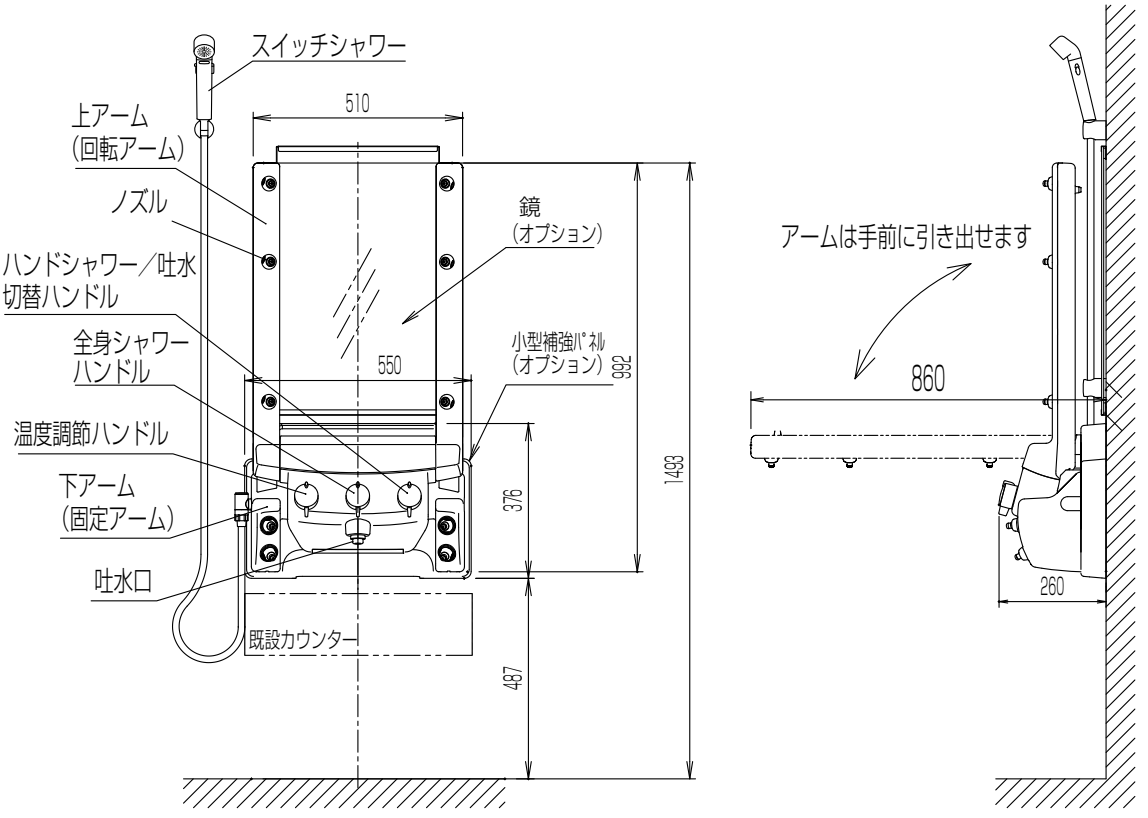
BWタイプ分岐なし



BWタイプ分岐あり

2. 各部の名称と特徴

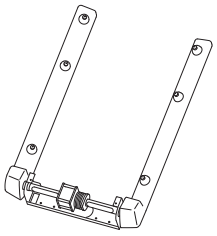
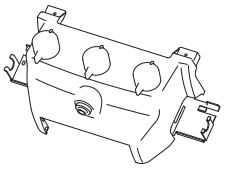
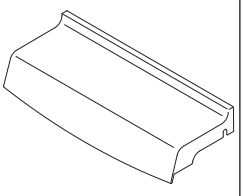
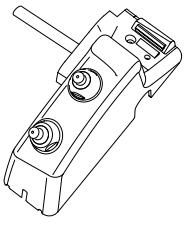
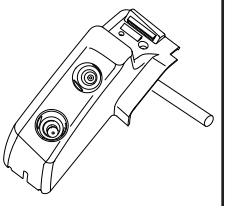
●上アームは回転軸を中心に手前方向に引き出すことができます。
（下アームは壁面に固定されています。）
●10か所に配置したノズルはそれぞれ噴霧方向を調節することができます。
●中央に全身シャワー専用のハンドルを備えています。
●スイッチシャワーを標準でセットしてあります。

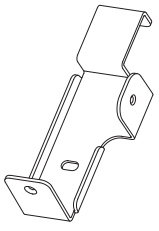
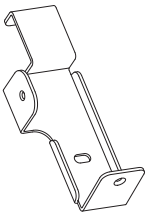
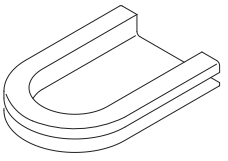
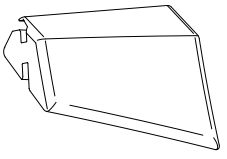
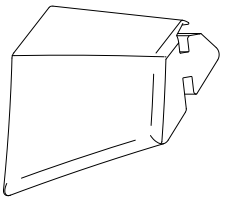


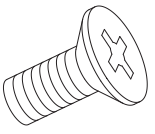
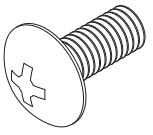
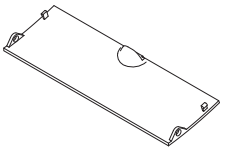
3. 部品梱包明細表

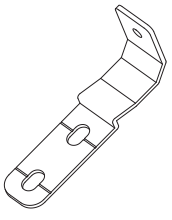
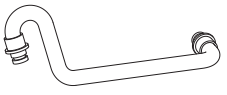
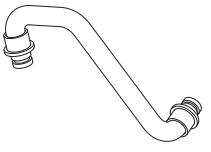
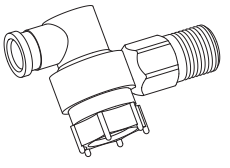
梱包を開き、部品および部材の有無・員数を確認してください。

シャワー・ド・バス（品番：NYS-MP2-P-W）

名称	上アーム	カウンター	カウンター天板	下アーム（右）	下アーム（左）
形状					
数量	1	1	1	1	1

名称	下アーム固定金具（右）	下アーム固定金具（左）	シャワーホース穴キャップ	下アーム緩衝材（右）	下アーム緩衝材（左）
形状					
数量	1	1	1	1	1

名称	アプセットボルト	サラ小ねじ	トラス小ねじ	ユリヤねじ	点検口フタ
形状	M4×L10（ステンレス）	 M4×L10（ステンレス）	 M4×L10（ステンレス）	M4×L10（ステンレス＋樹脂）	
数量	6	2	12	4	1

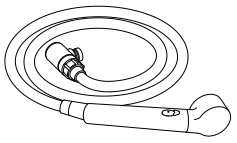
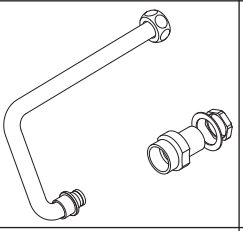
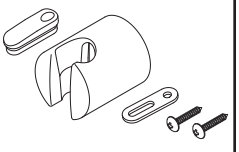
名称	カウンターバックハンガー	給水管	給湯管	流量調節栓（赤、青）	取付用型紙
形状					
数量	4	1	1	2	1

名称	取付説明書（本書）	取扱説明書	高温注意シール
形状			
数量	1	1	2

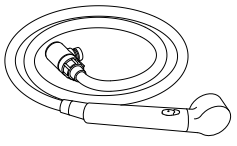
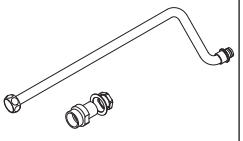
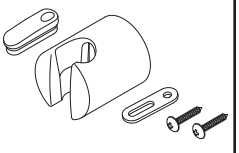
部品梱包明細表（タイプ別梱包品）

梱包を開き、部品および部材の有無・員数を確認してください。

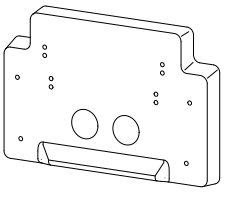
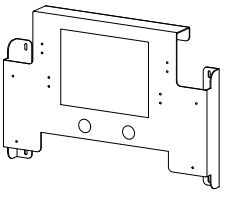
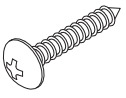
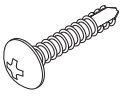
シャワーセット（L）（品番：A-8420-PU）

名称	スイッチシャワー	シャワー配管セット	シャワーフック
形状			
数量	1	1	2

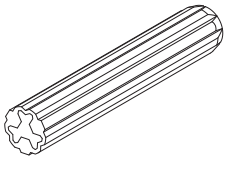
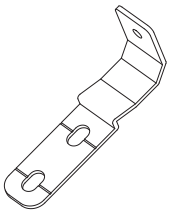
シャワーセット（R）（品番：A-8419-PU）

名称	スイッチシャワー	シャワー配管セット	シャワーフック
形状			
数量	1	1	2

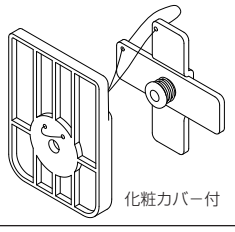
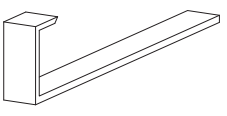
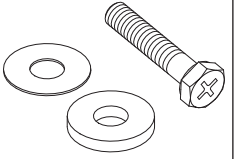
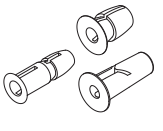
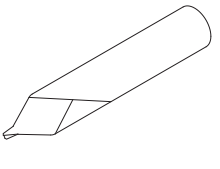
壁補強パネルBWタイプ在来用、壁補強パネルBWタイプUB用共通部材（品番：KHP-1B-AT、KHP-1B-AT-UB）

名称	壁補強パネルカバー	壁補強パネルフレーム	トラスタッピンねじ	ドリルねじ
形状			 ・トラスタッピン 呼び4×L25	 ・トラスタッピン 呼び4×L30
数量	1	1	20	20

壁補強パネルBWタイプ在来用　専用部材（品番：KHP-1B-AT）

名称	カールプラグ	バックハンガー
形状		
数量	30	2

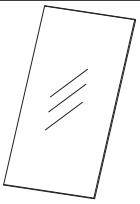
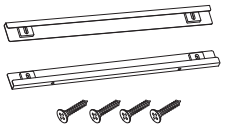
壁補強パネルBWタイプUB用　専用部材（品番：KHP-1B-AT-UB）

名称	壁裏補強板金セット	保温材キリカキ棒	壁補強板金取付ボルト	プラグセット	鋼板パネル専用ドリル
形状	 化粧カバー付		 M6×L30 （ステンレス）	 ・タイルパネル用 ・特殊化粧セメント板用 ・鋼板パネル用	
数量	2	1	2	各30	1

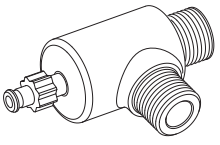
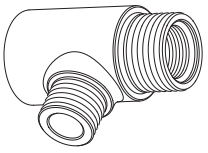
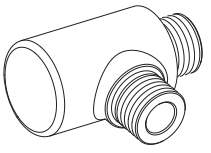
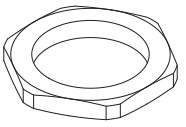
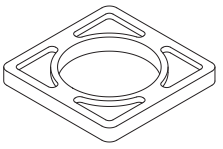
部品梱包明細表（オプション部品）

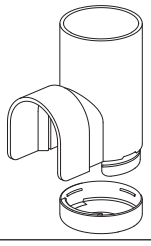
梱包を開き、部品および部材の有無・員数を確認してください。

ミラーセット（品番：KGM-3965S-AT）U、Wタイプ共通オプション

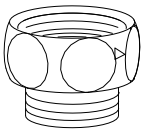
名称	鏡	鏡フレーム
形状		
	（KGM-3765S）	（MFH-360S）
数量	1	1

接続継手セットWS（品番：STG-1A-WS）

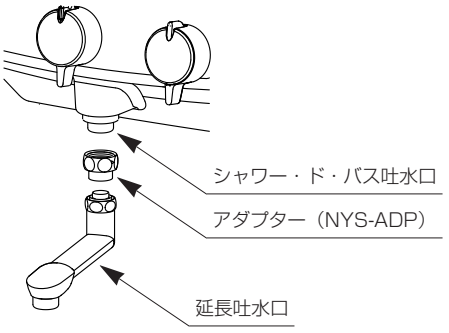
名称	水抜栓付エルボ	壁出し継手	エルボ	M28ナット	スペーサー
形状					
	（STG-1A-OSE）	（STG-1A-SP1）	（STG-1A-ELB）	（37-1029）	※（ES-4545AS）
数量	2	2	2	2	2

名称	断熱カバー
形状	
数量	1

吐水口アダプター（品番：NYS-ADP）

名称	アダプター
形状	
数量	1

延長吐水口を付ける場合に使用します。

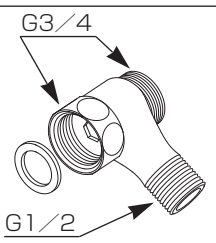


※ 延長吐水口は下記当社製品もしくは現場で手配してください。
（必ずφ16のものをお使いください）

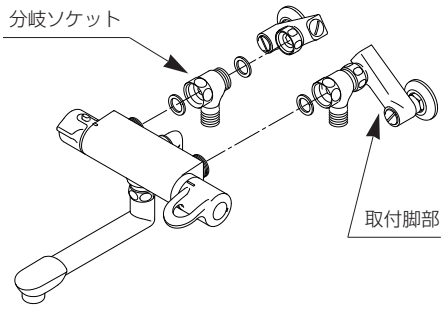
部品梱包明細表（オプション部品）

下記オプション部品を使用しない場合は現場にて相当品を手配してください。
梱包を開き、部品および部材の有無・員数を確認してください。

分岐ソケットセットG3／4（品番：STG6B-1A）

名称	分岐ソケットG3／4
形状	
数量	2

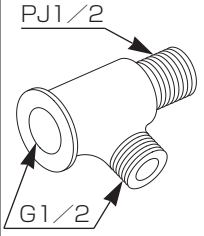
水栓取付脚部を取り外さない場合に使用します。



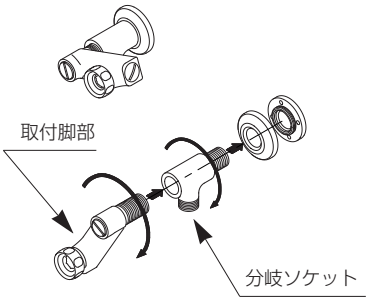
取付可能な水栓メーカー

・LIXIL、カクダイ、三栄、KVK、MYM各社の取付脚付の水栓。
・TOTO社製の取付脚付のツーバルブおよびレバー水栓。
※TOTO社製のサーモ付水栓には取付けできません。

分岐ソケットセットG1／2（品番：STG4B-1A）

名称	分岐ソケットG1／2
形状	
数量	2

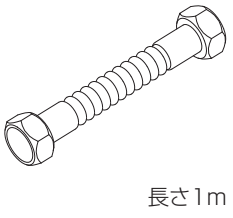
水栓取付脚部の取外しが可能な場合に使用します。



取付可能な水栓メーカー

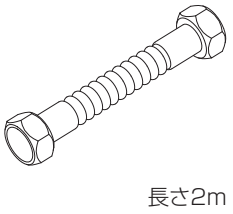
・LIXIL、カクダイ、三栄、KVK、MYM、TOTO各社の取付脚付の水栓。

被覆フレキ管セット1M（品番：HF1M-1A）

名称	被覆ステンレスフレキ管
形状	
数量	2

※現場にて相当品を手配する場合は、必ず被覆されたものもしくは、被覆材で被覆できるものとしてください。

被覆フレキ管セット2M（品番：HF2M-1A）

名称	被覆ステンレスフレキ管
形状	
数量	2

※現場にて相当品を手配する場合は、必ず被覆されたものもしくは、被覆材で被覆できるものとしてください。

4. 必要工具

取付けにあたり、以下の工具をご用意ください。

・電動ドリル
・電動ドライバー
・プラスドライバー
・プライヤー
・スパナ
・モンキーレンチ
・プラスチックハンマー
・水準器
・金尺
・巻尺
・ニッパー
・カッターナイフ
・シールテープ
・シリコン
・コーキングガン
・マーキングペン
・ウェス
・温度計
・ホールソー（φ30）

給水／給湯配管にフレキ管を使用する場合
・フレキカッター
・フレキ管ツバ出し器

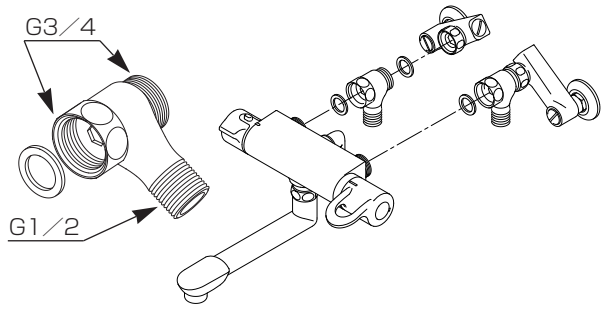
壁裏の補強フレームや配管の位置確認に使用します。
・壁裏センサー

5. 現場手配部材

現場の状況に合わせて、下記部材をご用意ください。

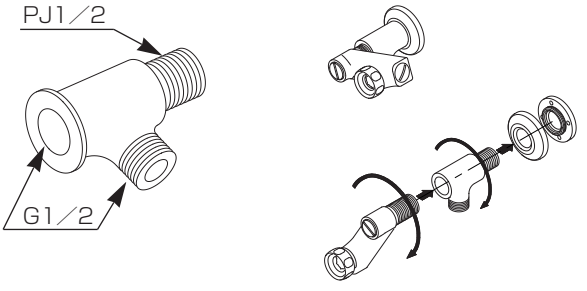
分岐ソケット
既設の水栓金具からシャワー・ド・バスまでの配管を分岐する際に使用します。（2個使用します）
分岐させる場所によって分岐ソケットの種類が異なります。現場の状況にあったものを選択してください。

取付脚部の後で分岐させる場合（取付脚部を取り外さない場合）



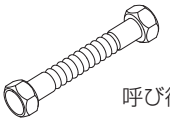
※オプション品で「分岐ソケットセットG3／4」をご用意しております。（P.7を参照してください）

取付脚部より一次側で分岐させる場合（取付脚部の取外しが可能な場合）



※オプション品で「分岐ソケットセットG1／2」をご用意しております。（P.7を参照してください）

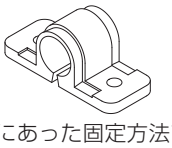
●被覆フレキ管またはその他の配管部材



呼び径：13A

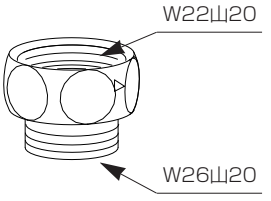
※オプション品で被覆フレキ管セットをご用意しております。（P.7を参照してください）

●配管固定部材（サドルバンド等）



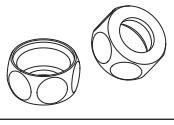
※配管部材にあった固定方法で固定してください。

●吐水口アダプター



※延長吐水口を使用する際に必要です。

●袋ナットまたはその他の接続部材



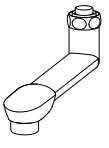
呼び径：G1／2

●配管被覆部材

※被覆なしの配管部材を露出部分に使用する場合はヤケド防止のために必ず被覆してください。

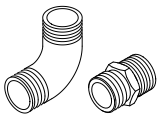
●延長吐水口

※延長吐水口は下記当社製品もしくは現場で手配してください。
（必ずφ16のものをお使いください）



LIXIL（吐水口部）
A-3455-10（長さ：100ミリ）¥3,300
A-3455-17（長さ：170ミリ）¥3,500

●エルボまたはニップル



※現場の状況に合わせて手配してください。

●化粧ねじ／キャップ

※器具を外した後の穴をふさぐときに使用します。

参考商品
（株）八幡ねじ
プッシュリベット
サイズ：φ5、φ6

6. 取付手順

1．シャワー・ド・バス設置位置の決定　P.11

2．配管経路の決定　P.11

3．配管部材の選定　P.11

4-A．既設の水栓金具の取外し　P.12

4-B．分岐ソケットの接続　P.12

1．壁補強パネルの組立て　P.13

2．壁補強パネル取付穴の開口　P.13

3．プラグの打込み　P.14

4．壁補強パネルの取付け　P.15

5．給水／給湯配管の接続　P.18

6．ここで漏水検査　P.20

7．パネルカバーの取付け　P.20

8．カウンターの取付け、配管接続　P.21

9．下アームの取付け　P.22

10．上アームの取付け　P.26

11．点検口フタの取付け　P.27

12．鏡の取付け（オプション選択時）　P.28

13．ハンドシャワーの取付け　P.29

14．高温注意シールの張付け　P.30

15．延長吐水口の取付け　P.30

16．吐水温度の確認・調節　P.31

17．給水給湯管の耐圧試験　P.33

18．取付後の点検　P.33

7. 器具取付位置図

（注1） ドリルで壁に開口するときは、事前に壁裏センサー等を用いて給水／給湯配管の位置を必ず確認してください。ドリルで配管を破損させ、壁裏漏水等の重大な結果を招く恐れがあります。

（注2） シャワー・ド・バス（後付けタイプ）は既設の水栓金具の位置や、壁裏配管の位置等によってシャワー・ド・バス本体の設置位置や配管の取回しが大きく変わります。浴室のイメージや見栄えに大きく影響しますので、お客さまとよくご相談の上、設置位置・配管の取回し等を決定してください。

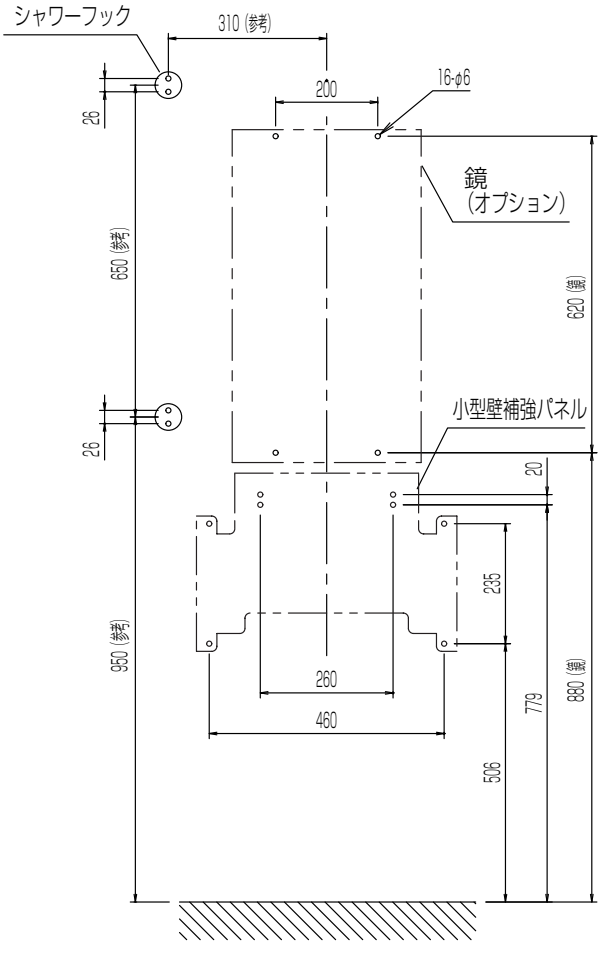
（注3） ドリルで壁に穴開口する際は、ドリル本体と壁面が当たらないようにしてください。
壁やタイルが破損する恐れがあります。

（注4） ユニットバスへ設置する場合、壁裏補強フレームの入り位置によってはシャワー・ド・バスの設置位置が制限される場合があります。設置位置を水平方向に移動させることをご検討ください。

（注5） タイル壁に穴開口する際に振動ドリルは使用しないでください。タイルが破損する恐れがあります。

A．在来工法浴室の場合

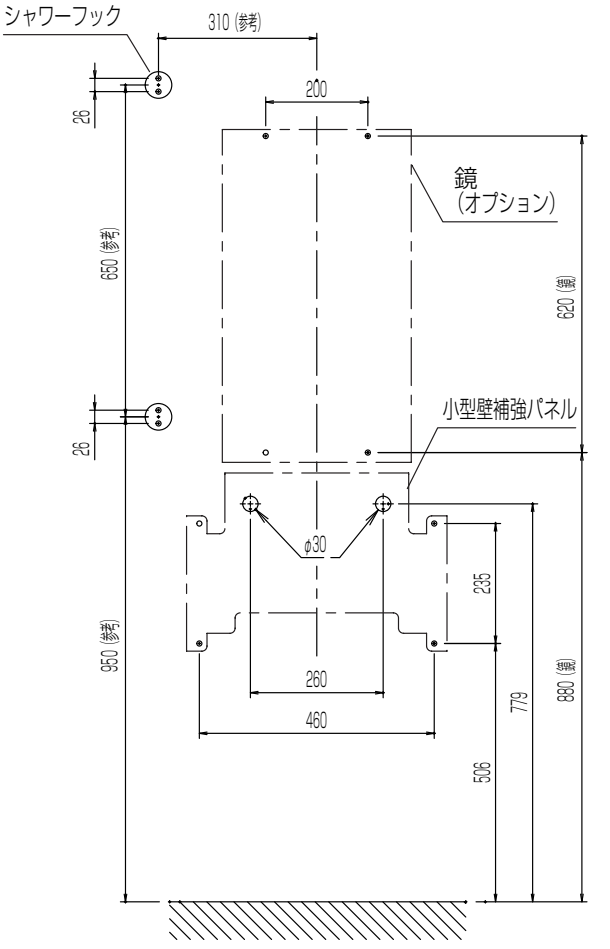
付属のカールプラグを使用される場合の下穴径はφ6です。



B．ユニットバスの場合

壁またはパネルの材質によってプラグが変わります。各プラグに対応する下穴径は下表のようになります。

壁	プラグ	下穴（mm）
タイルパネル	P5A	φ5
特殊化粧セメント板	P6A	φ6
鋼板パネル	P6B	φ6



8. 取付方法

取付作業にあたり

1）浴室への給水を停止してから作業を行ってください。
2）ドリルで壁に開口するときは、事前に壁裏センサー等を用いて給水／給湯配管の位置を必ず確認し、ゆっくりと慎重にあけ、ドリルを深く押し込まないでください。。ドリルで配管を破損させ、壁裏漏水等の重大な結果を招く恐れがあります。
3）シャワー・ド・バス（後付けタイプ）は既設の水栓金具の位置や、壁裏配管の位置等によってシャワー・ド・バス本体の設置位置や配管の取回しが大きく変わります。浴室のイメージや見栄えに大きく影響しますので、お客さまとよくご相談の上、設置位置・配管の取回し等を決定してください。
4）ドリルで壁に穴開口する際は、ドリル本体と壁面が当たらないようにしてください。
壁やタイルが破損する恐れがあります。
5）必ず、壁の種類にあった専用のドリルで穴開口してください。
6）タイル壁に穴開口する際に振動ドリルは使用しないでください。タイルが破損する恐れがあります。

全タイプ共通手順

1．シャワー・ド・バス設置位置の決定

シャワー・ド・バスの設置位置を決めます。下記項目を検討し位置を決定してください。

a. 浴室ドアの開閉時に、シャワー・ド・バスと干渉しないこと。
b. 壁裏補強フレーム、給水／給湯配管とシャワー・ド・バス取付用穴が重ならないこと。
c. シャワーキャリーの使用に支障がないこと。（シャワーキャリーを使用される場合）

2．配管経路の決定

水栓金具からシャワー・ド・バスまでの給水／給湯配管は露出します。浴室のイメージや見栄えに大きく影響しますので、下記項目をお客さまとよくご相談の上で経路や配管部材を決定してください。

a. 転倒やヤケドの恐れがないような場所に設置すること。
b. 配管の固定が可能であること。
c. 配管と固定部材ともに清掃が困難でないこと。
d. メンテナンスがしやすいこと。

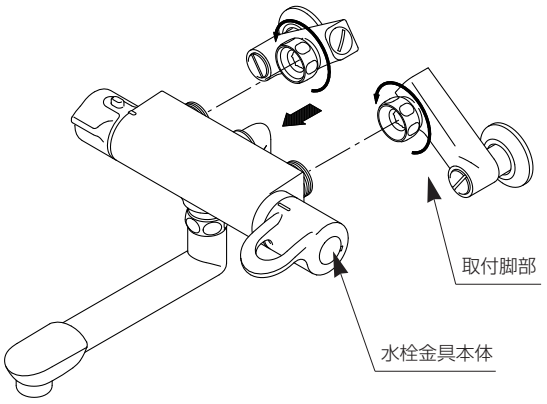
3．配管部材の選定

既設の水栓金具からシャワー・ド・バスまでの配管部材を選定してください。
分岐ソケットと被覆フレキ管はオプションでご用意しています。（P.7を参照してください。）これらの部材を現場手配する場合は、オプション相当品を手配してください。

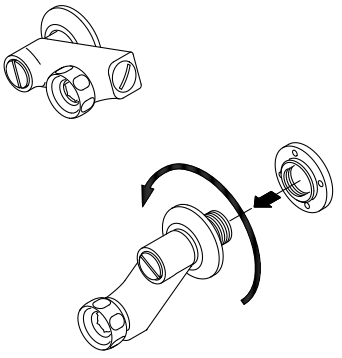
4-A．既設の水栓金具の取外し（水栓からの「分岐なし」の場合のみ）

既設の水栓金具を取り外してください。取付脚部も取り外します。

①水栓金具本体を取付脚部から外します。



②取付脚部を反時計回りにまわして取付脚部を外します。

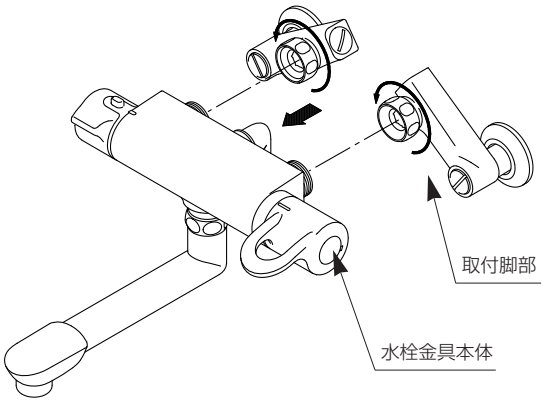


4-B．分岐ソケットの接続（水栓からの「分岐あり」の場合のみ）

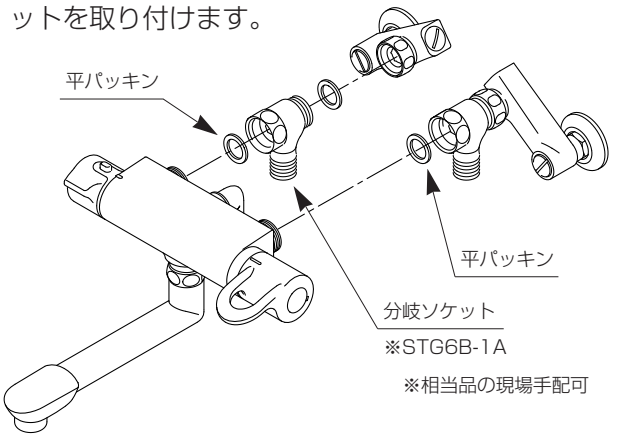
ⓐ既設の水栓の本体と水栓取付脚部との間に分岐ソケットを接続する場合

（注）取付脚部に逆止弁が組み込まれている場合は、ⓑの取付脚部より一次側で分岐ソケットを接続してください。

①水栓金具本体を取付脚部から外します。



②水栓取付脚部と水栓本体との間に分岐ソケットを取り付けます。

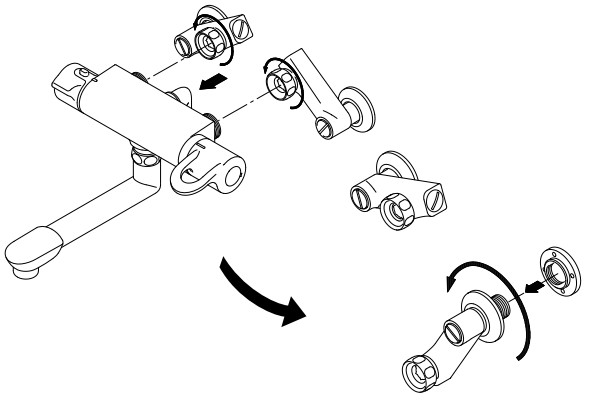


※相当品の現場手配可

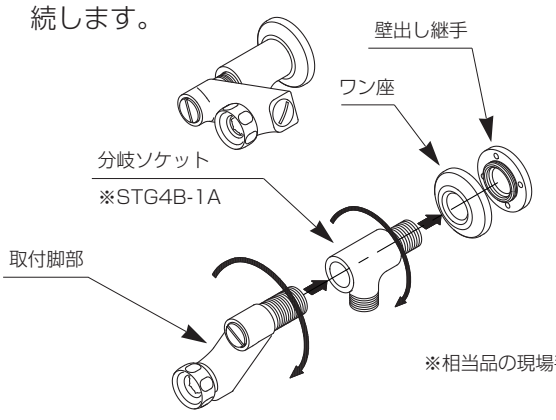
ⓑ既設の水栓の水栓取付脚部と壁からの取出口の間に分岐ソケットを接続する場合

（注）取付脚部に逆止弁が組み込まれている場合は、ⓑの取付脚部より一次側で分岐ソケットを接続してください。

①水栓金具本体と取付脚部を外します。



②壁出し継手に分岐ソケットと取付脚部を接続します。



※相当品の現場手配可

⚠ 注意

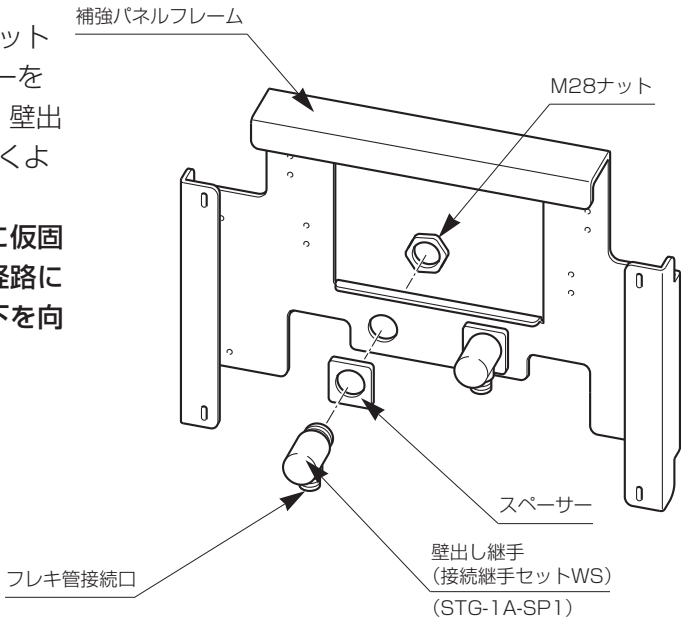
既設の給水／給湯配管や水栓金具を破損させないように十分注意して作業してください。
既設水栓の取外しができない場合はシャワー・ド・バスの設置はできません。

1．壁補強パネルの組立て

使用する接続継手セット：STG-1A-WS

①補強パネルフレームに「接続継手セットWS」より、壁出し継手をスペーサーを介してM28ナットで仮固定します。壁出し継手のフレキ管接続口が真下を向くように取り付けてください。

（注）壁出し継手は調節できるように仮固定しておいてください。配管経路によってはフレキ管接続口が真下を向かない場合があります。



※この図は裏側からみた図です。

2．壁補強パネル取付穴の開口

※P.10「7．器具取付位置図」を参照して必要な穴を専用ドリルを用いて開口してください。

①シャワー・ド・バス本体梱包に付属の取付用型紙を壁に高さを合わせて張り付けて、開口してください。取付用型紙は、カウンターバックハンガーの穴位置（2か所）を示しています。

⚠注意

（1）ドリルで壁に開口するときは、事前に壁裏センサー等を用いて給水／給湯配管の位置を必ず確認してください。ドリルで配管を破損させ、壁裏漏水等の重大な結果を招く恐れがあります。

（2）ドリルで壁に穴開口する際は、ドリル本体と壁面が当たらないようにしてください。壁やタイルが破損する恐れがあります。

（3）必ず、壁の種類にあった専用のドリルで穴開口してください。

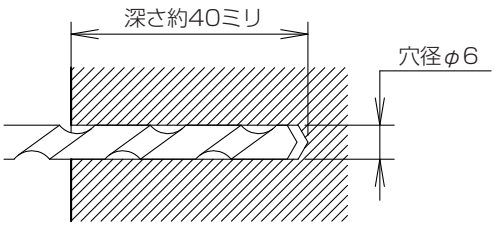
（4）タイル壁に穴開口する際に振動ドリルは使用しないでください。タイルが破損する恐れがあります。

3．プラグの打込み

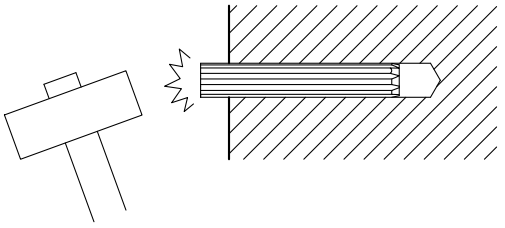
設置する浴室の壁にあったプラグを使用してください。

在来工法浴室へ設置する場合

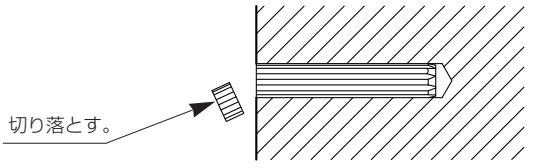
① ドリルで下穴をあけます。



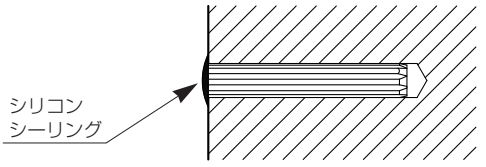
② 奥までプラグを打ち込みます。



③ 下穴深さが十分確保できず、プラグが飛び出てしまう場合はニッパー等で切断してください。



④ シリコンシーリングします。

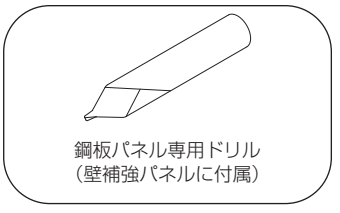


（注）タイルを割らないように注意して作業してください。

ユニットバスへ設置する場合

下表より壁パネルの種類にあったプラグを選定し、取り付けてください。
鋼鈑パネルの場合は付属の専用ドリルを使用してください。

壁	プラグ	下穴（mm）
タイルパネル	P5A	φ5
特殊化粧セメント板	P6A	φ6
鋼板パネル	P6B	φ6



4．壁補強パネルの取付け

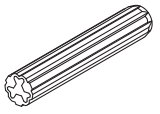
※P.10「7．器具取付位置図」を参照して必要な穴を専用ドリルを用いて開口してください。

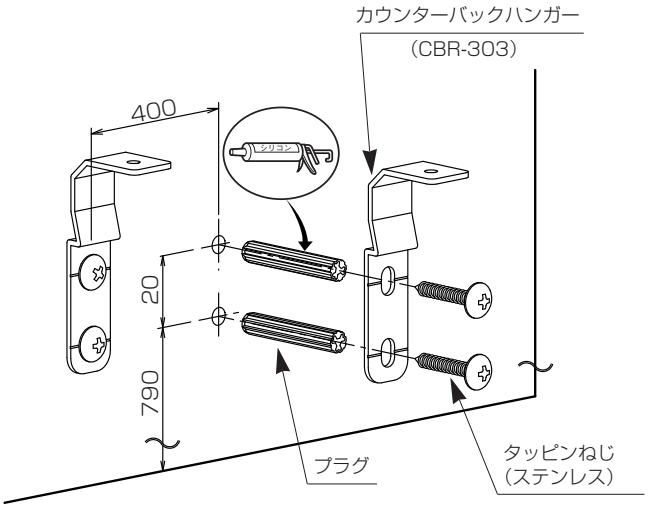
在来工法浴室へ設置する場合

壁補強パネルを浴室壁に取り付けます。

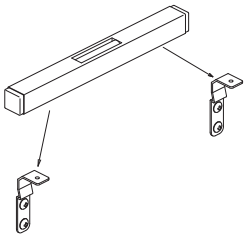
①カウンターバックハンガーをP.10「7．器具取付位置図」を参照して壁に取り付けてください。シャワー・ド・バス本体梱包に付属の紙テンプレートを壁に高さを合わせて張り付けて、開口してください。紙テンプレートは、カウンターバックハンガーの穴位置を示しています。

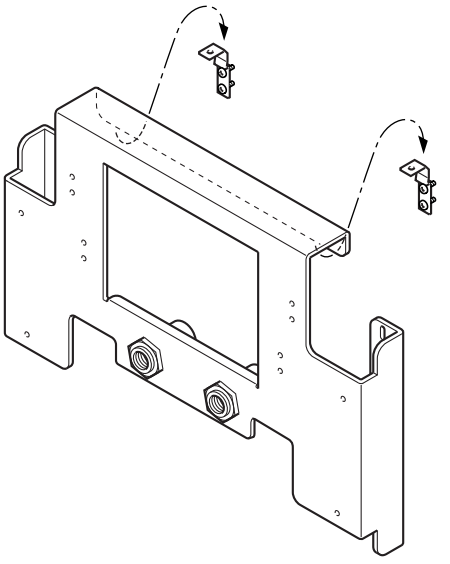
在来用
カールプラグ





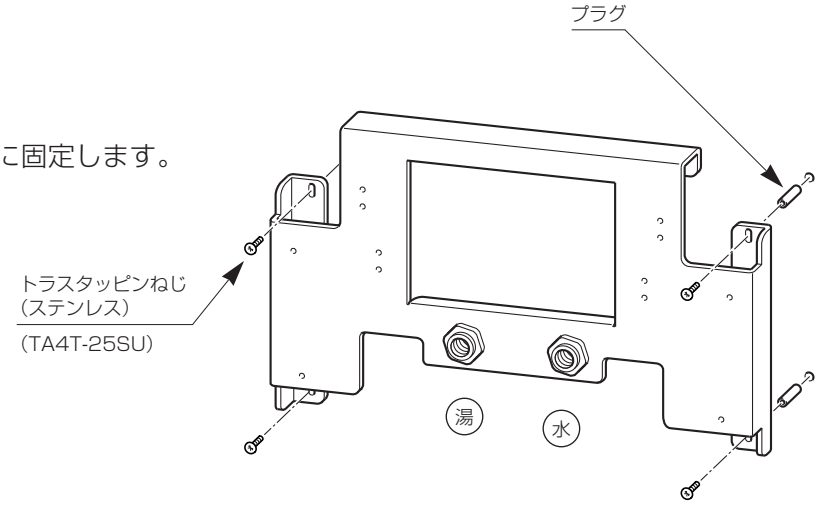
②カウンターバックハンガー取付後、水準器にて水平になるように調節してください。





③壁補強パネルをカウンターバックハンガーに引っ掛けます。

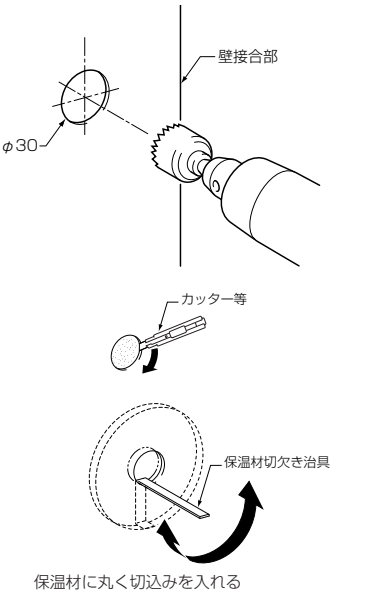
④壁補強パネルをねじで浴室壁に固定します。ねじは4か所を固定します。



ユニットバスへ設置する場合

⚠ 注意

（1）以下の手順は、事前に「事前確認セット」を用いて壁裏の状況が確認され、設置できると判断されていることが前提になります。
（2）鋼板パネルへの穴開口を行う際は、サンドイッチ仕様のパネルである可能性を考慮して、表面の鋼板が貫通したらドリル（ホールソー）の進度をおとし、様子を見ながら壁貫通するようにしてください。



①壁パネルの穴あけ（φ30×2か所）

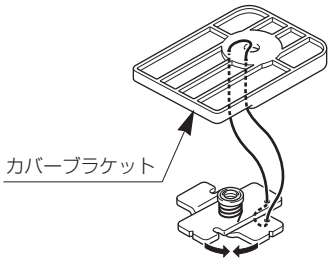
（1）P.10「7.器具取付位置図」を参照して穴位置をけがき、φ30ホールソーで穴をあけます。
（注）壁裏面に石こうボードの紙が残った場合、無理にホールソーであけず、カッター等で穴にそって切り取ってください。

（2）裏面に保温材（発泡スチロールt15）が張られている場合、カッター等で穴にそって保温材を取り除きます。

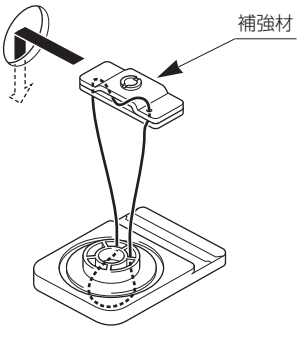
（3）同梱の保温材切欠治具で保温材をφ160位取り除きます。
（注）取り除く際、手袋等保護具を着用してください。

②十字補強金具の取付け

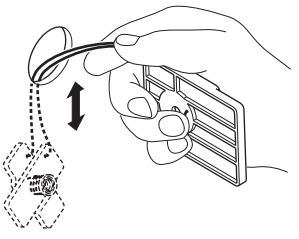
（1）十文字に開いている状態から90°回転させて重ね合わせます。
（注）回転させる時、90°でV形切込みが合う方向へ回転させると、ヒモがからみ開かなくなります。



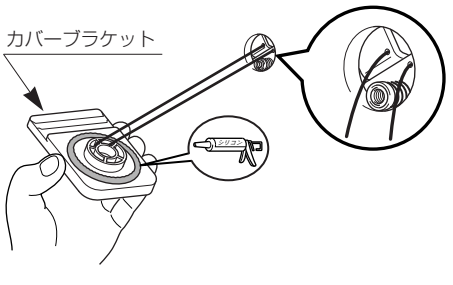
（2）補強材の凸側を上にして、φ30穴へ落とし込みます。
（注）乱暴に入れると補強材が裏返ることがあります。



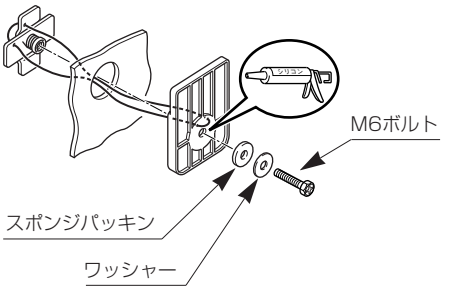
（3）ヒモを上下させて、十文字に開きます。
（注）開きにくい場合、少し強めに上下させます。



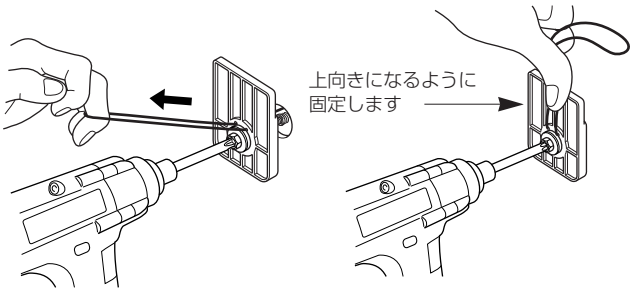
（4）カバーブラケットの裏面のみぞにシリコンを充てんします。
（注）補強材のナット部をφ30穴下端に仮置きしておきます。



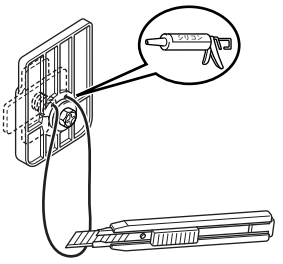
（5）ボルトをカバーブラケットに通し、補強材のねじ穴に軽く先端をねじ込んでおいてください。



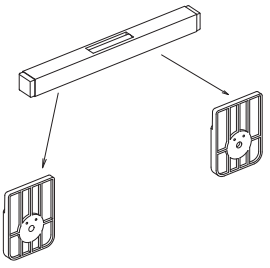
(6)ヒモを軽く引きながら、ボルトをねじ込みます。
カバーブラケットのボスがφ30穴に入るように
高さを合わせながらねじ込んでいってください。



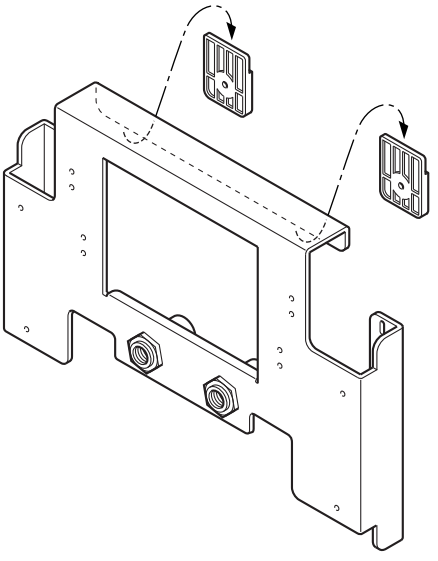
(7)ヒモをカッター等で切断し、抜きとります。
抜き取った穴にシリコンを充てんします。



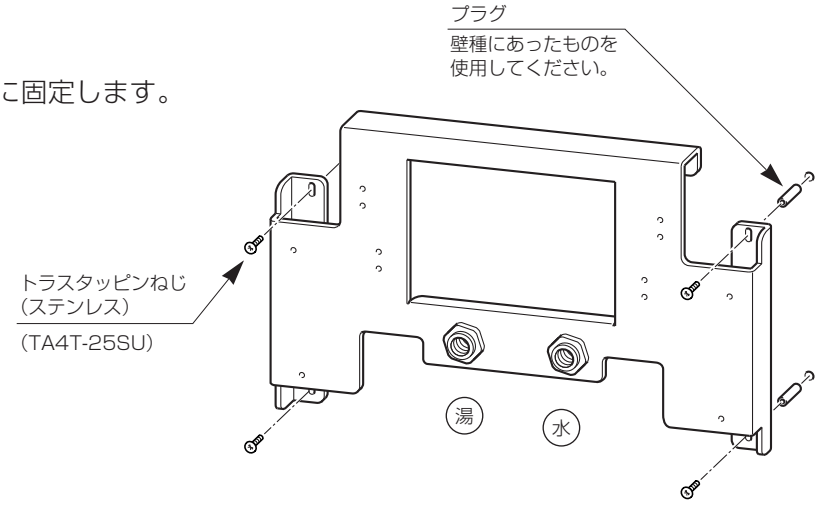
③カバーブラケット取付後、水準器にて水平
になるように調節してください。



④壁補強パネルをカバーブラケットに引っ掛
けます。



⑤壁補強パネルをねじで浴室壁に固定します。
ねじは4か所を固定します。

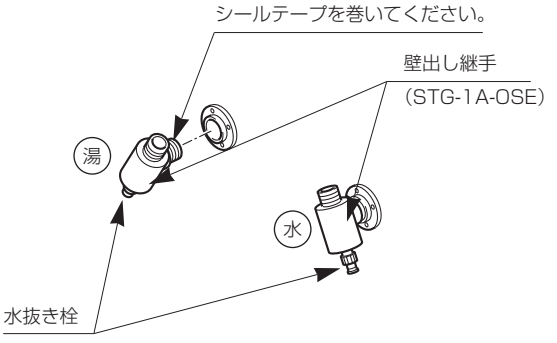


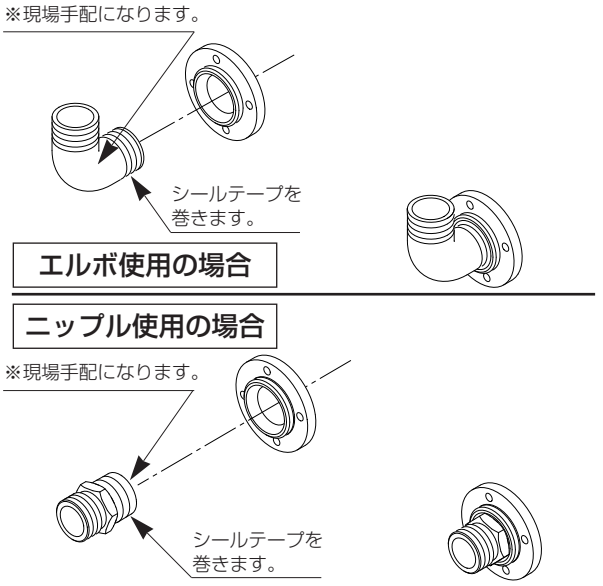
5．給水／給湯配管の接続

「水栓からの分岐なし」の場合

使用する接続継手セット：STG-1A-WS

①水栓金具を取り外した後の壁出し継手に接続継手セットWS（STG-1A-WS）内のエルボ（STG-1A-OSE）を接続してください。





（注1） 寒冷地でない場合は水抜きは必要ありませんので、市販のエルボ等を用いて直接配管しても構いません。

（注2） 寒冷地の場合、水抜栓から配管内のすべての水が抜けるように配管には角度をつけて水がたまる場所を作らないようにしてください。

（注3） 寒冷地の場合、水抜栓がパネルカバーを取り付けた後にでも操作できるように取り付けてください。

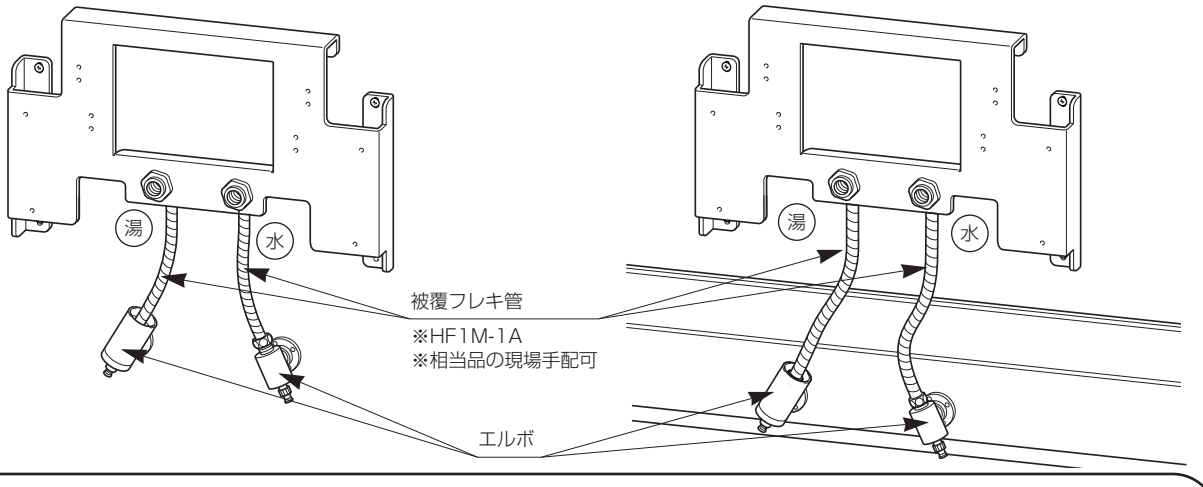
②被覆フレキ管等で配管接続してください。配管接続後は、仮固定していた壁出し継手（STG-1A-SPI）をM28ナットで固定します。

（注1） 壁出し継手を使用する場合は、接続継手セット内の断熱カバーを湯側の継手に取り付けてください。（接続継手セット内のビラを参照ください。）

（注2） 被覆フレキ管またはフレキ管を用いて配管する場合は、配管の最小曲げ半径が50mm以上となるように取り回してください。

（注3） 本体同梱の高温注意シールを給湯側の被覆フレキ管に必ず張り付けてください。

（注4） 壁出し継手（STG-1A-OSE）を使用しない場合は、本体同梱の高温注意シールを給湯側のエルボ等に必ず取り付けてください。



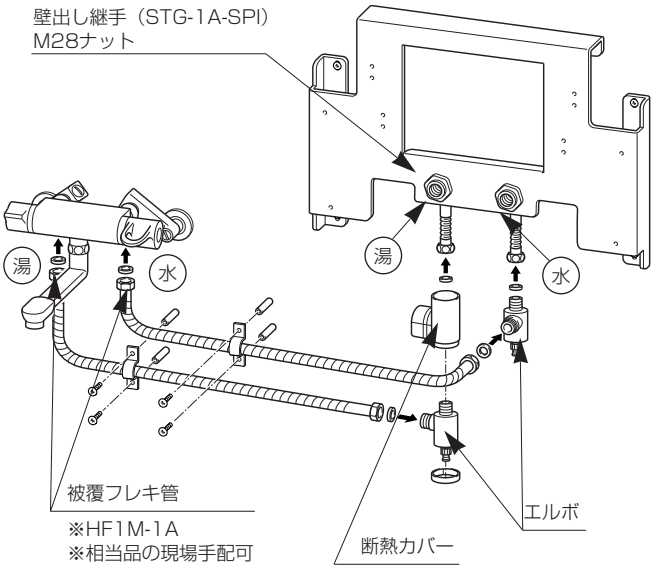
⚠注意

（1）湯水を逆に接続しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。

（2）露出する部分の配管は、必ず被覆してください。
※ヤケドをする恐れがあります。

「水栓からの分岐あり」の場合
使用する接続継手セット：STG-1A-WB

①分岐ソケットから流量調節栓までを被覆フレキ管等で配管してください。配管後は、配管固定部材（サドルバンド等）で固定してください。配管接続後は、仮固定していた壁出し継手（STG-1A-SPI）をM28ナットで固定します。



（注1） 壁出し継手には、接続継手セット内の断熱カバーを湯側に取り付けてください。（接続継手セット内のビラを参照してください。）

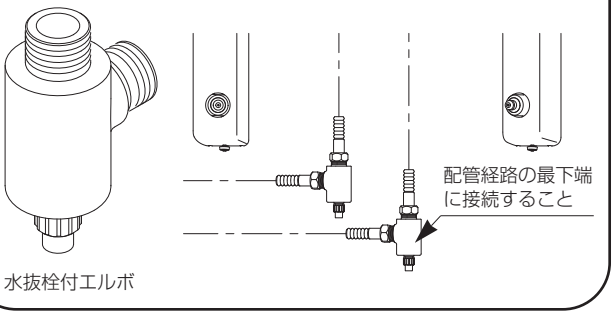
（注2） 被覆フレキ管またはフレキ管を用いて配管する場合は、配管の最小曲げ半径が50mm以上となるように取り回してください。

（注3） 寒冷地の場合、水抜栓から配管内のすべての水が抜けるように配管には角度をつけて水が溜まる場所を作らないようにしてください。

（注4） 本体同梱の高温注意シールを給湯側の分岐ソケット・被覆フレキ管に必ず張り付けてください。

（注5） 寒冷地の場合、水抜栓がパネルカバーを取り付けた後にでも操作できるように取り付けてください。

寒冷地の場合は、接続継手セットU（STG-1A-WS）の水抜栓付エルボ（STG-1A-OSE）を下図の位置に接続します。**水抜栓は配管経路の最下端に接続する必要があります。**接続後、水抜栓の操作ができる位置に取り付けてください。

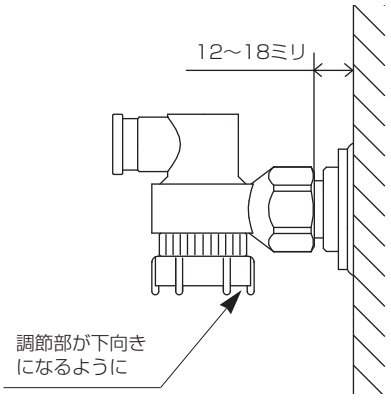


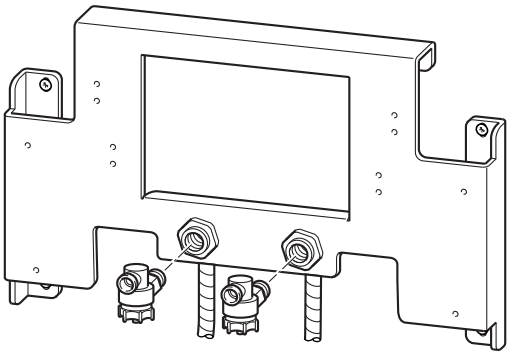
⚠注意

（1）湯水を逆に接続しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。

（2）露出する部分の配管は、必ず被覆してください。
※ヤケドをする恐れがあります。

②流量調節栓にシールテープを巻き、壁出し継手に接続します。調節部は真下を向くように取り付けてください。





（注）上図のように調節栓の突出量を調節してください。

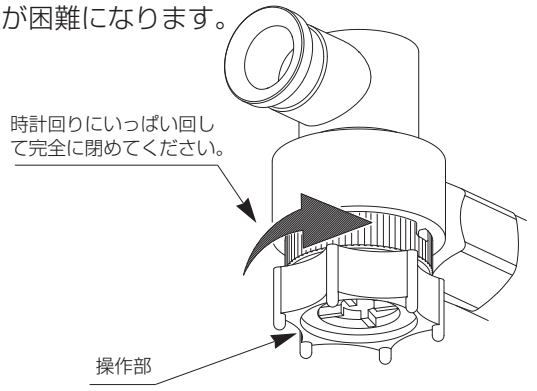
6．ここで漏水検査

パネルカバーを取り付けると、内部の配管の漏水検査／修復が困難になります。
ここで、一旦漏水検査を行ってください。

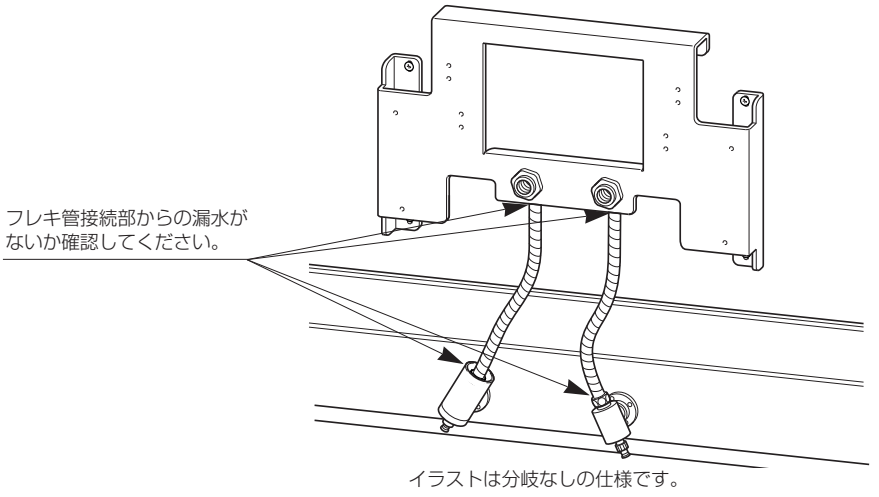
①流量調節栓は止水栓も兼用しております。右図の方向に操作部をいっぱいに回して完全に閉じられていることを確認してください。（湯、水とも行ってください。）

②浴室への通水を行い、フレキ管や継手まわりからの漏水がないことを確認してください。

③確認が終わりましたら、再度浴室への通水を止めてください。



※この段階で行う漏水検査（耐圧試験）では給水/給湯配管に印加する圧力は0.75MPa以下としてください。



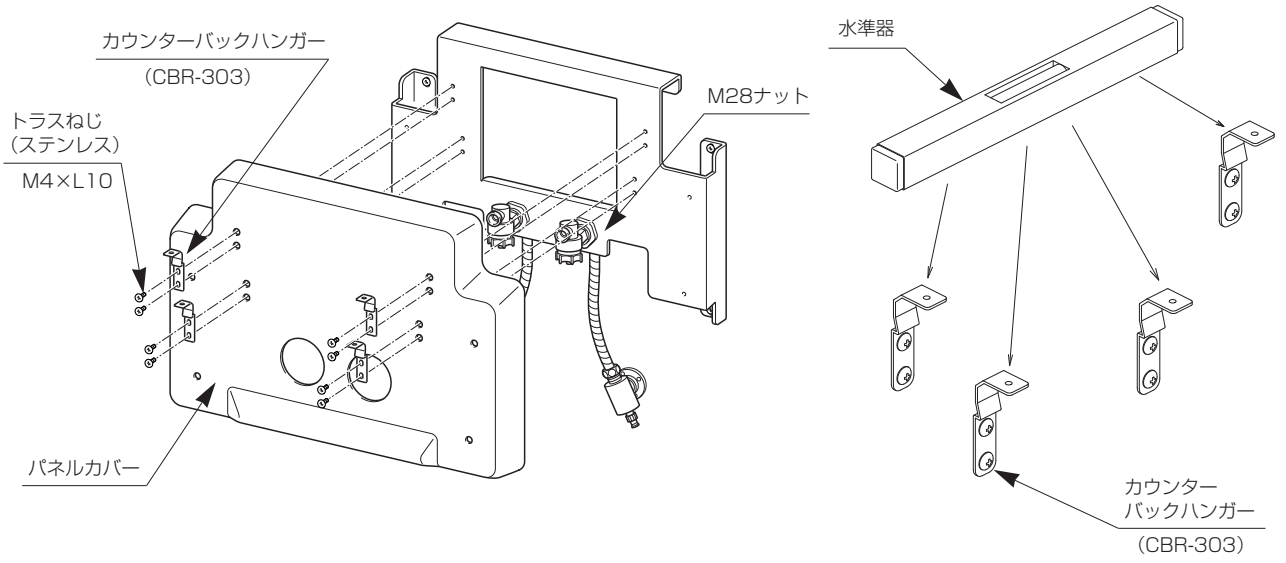
●以降の取付けは漏水検査の終了後に実施してください。

パネルカバー取付後の確認は二度手間になる恐れがあります。

7．パネルカバーの取付け

①パネルカバーをかぶせ、カウンターバックハンガーにて固定します。
取付後、水準器にて水平になるように調節してください。

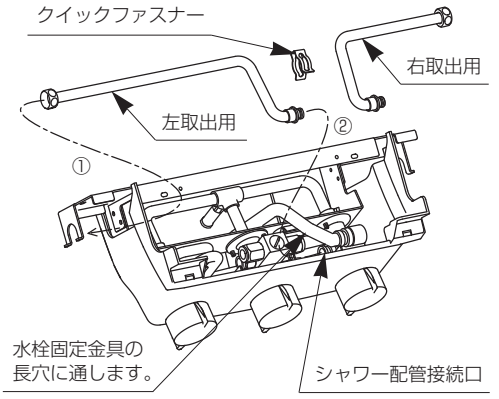
（注）パネルカバーを取り付ける前にM28が固定されているか確認してください。



8．カウンターの取付け、内部配管接続

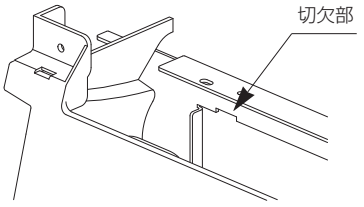
①シャワー配管をカウンター内の水栓金具へ接続します。
カウンターの背面側より配管を入れ、水栓金具にクイックファスナーで固定します。
シャワー配管の袋ナット側をユニットバスの浴槽側へ引き出してください。

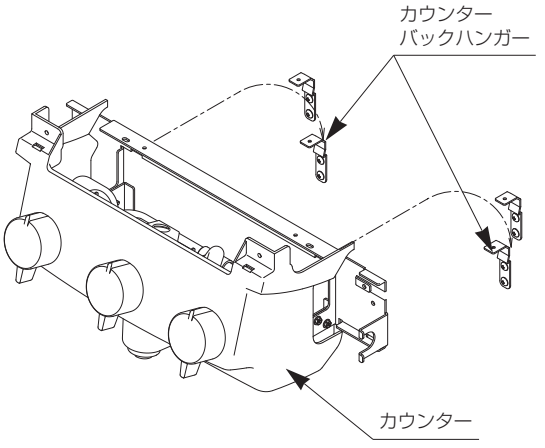
（注）シャワー配管はユニットバスの仕様によって右取出用、左取出用のどちらか一方が同梱されています。



②カウンターを低い位置のカウンターバックハンガーに引っ掛けます。バックハンガーを左右の切欠部に合わせてください。

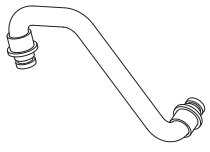
（注）バックハンガーの受け面までがっちりとはめ込んでください。



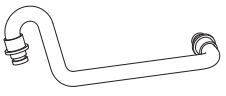


③給湯・給水配管を取り付けます。
サーモ水栓金具～流量調節栓を接続します。
配管はクイックファスナーでとめます。

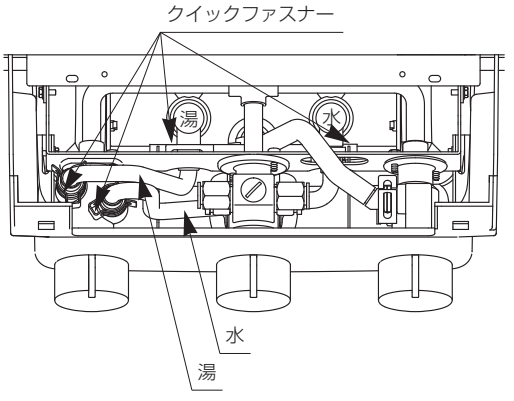
（注）給湯・給水配管は流量調節栓側から接続し、次にサーモ水栓へ接続してください。



給湯管



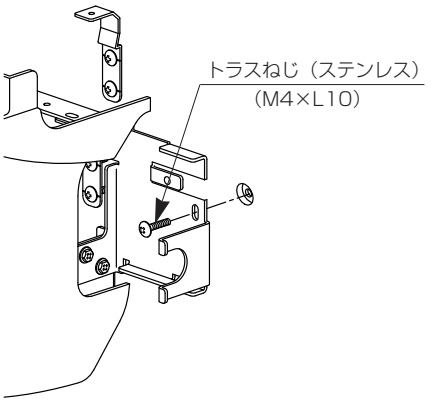
給水管



⚠注意

配管を無理やり差し込んだりしないでください。
Oリングの片ずれや切れが生じ、漏水の恐れがあります。

④カウンター固定金具の両側をねじで壁に固定します。固定は左右各1か所ずつ行ってください。



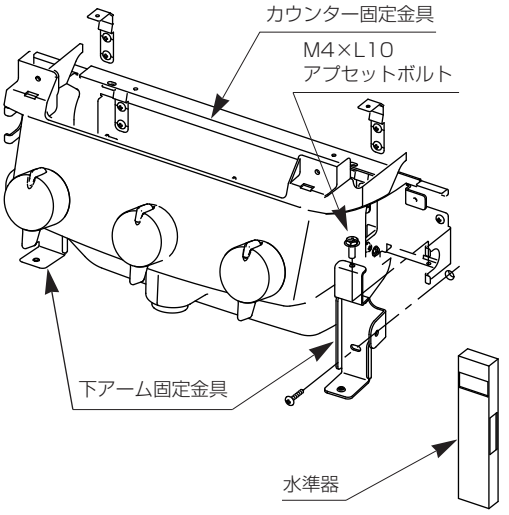
9．下アームの取付け

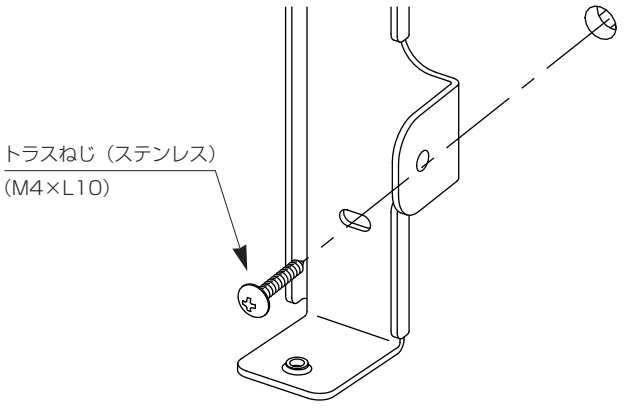
①下アーム固定金具をカウンター固定金具と壁に上下2か所をねじで固定します。

（注1） 下アーム固定金具には左右があります。間違えないように取り付けてください。

（注2） 下アーム固定金具が垂直になるように水準器を使用して調節してから固定してください。
調節は下側の長穴で行ってください。

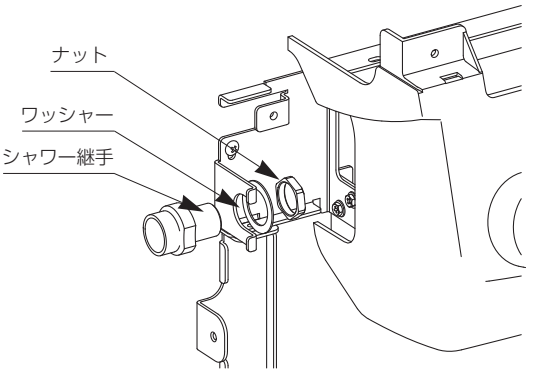
（注3） ユリヤねじは取り付けないでください。





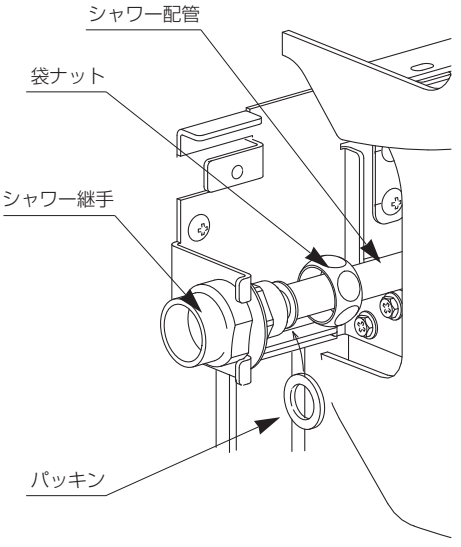
②シャワー継手をカウンター固定金具の端部に取り付けます。

（注）ユニットバスのタイプによってシャワーの引出方向（左右）が変わります。
シャワー継手の取付側を間違えないように確認してください。

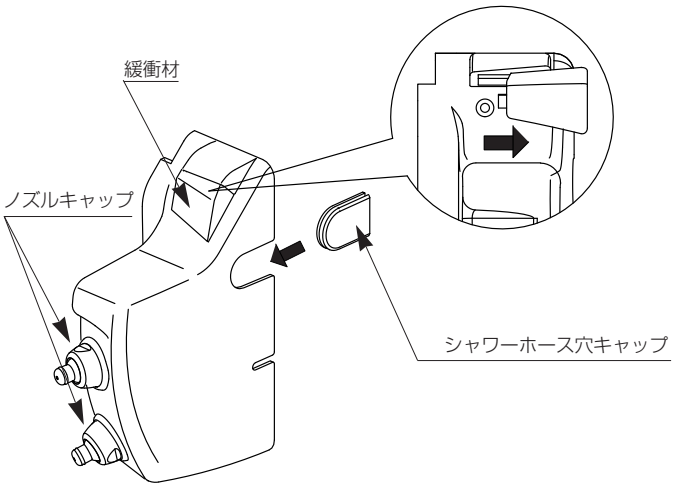


③シャワー接続配管とシャワー継手を接続します。袋ナットをシャワー継手にねじ込みます。

（注）パッキンを忘れずに組み込んでください。
パッキンはシャワー配管にビニルタイでくくり付けてあります。



④シャワーホース穴キャップをシャワー継手と反対側の下アームにはめ込みます。緩衝材は取り外してください。



⑤ノズルキャップが確実に締めてあるか確認してください。

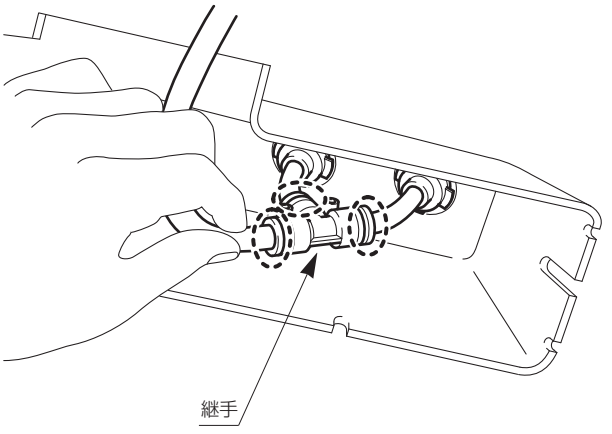
（注1） ノズルキャップが止まるまで確実に締めてあるか確認してください。緩んでいますと漏水の原因となります。

（注2） ノズルキャップを締めるときは必ず、手で行ってください。工具を使用すると、ノズルキャップにキズがつく恐れがあります。

（注3） ノズルキャップの締めすぎにご注意ください。キャップを締めすぎると、ノズルを動かしにくくなります。また、破損する恐れがあります。

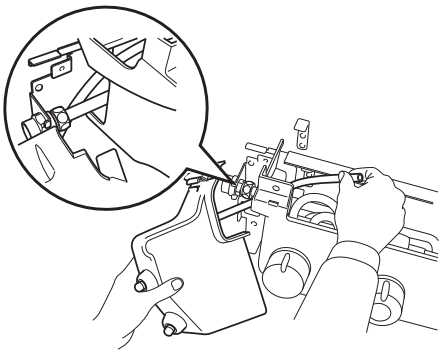
⑥下アームを取り付ける前にチューブが継手の奥までしっかりと押し込まれているか確認してください（左右各3か所）。

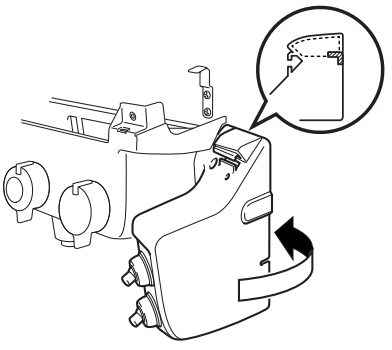
（注）奥まで押し込まれていないと漏水の原因となります。



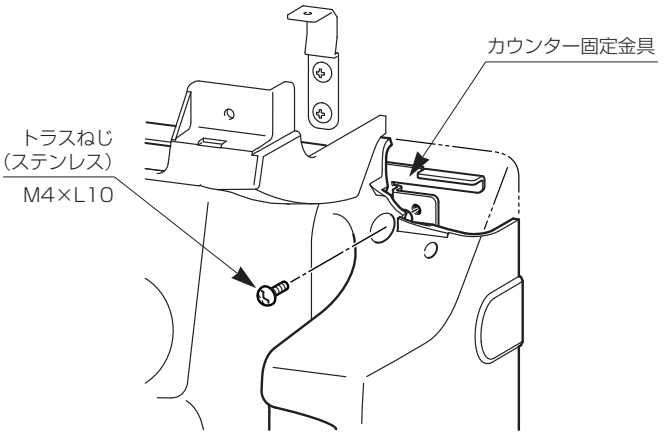
⑦下アームを取り付けます。下アームチューブをカウンター内部に引っ張りながらアームを取り付けてください。

（注）シャワー配管がある場合には、配管の後ろにチューブを通して取り付けてください。

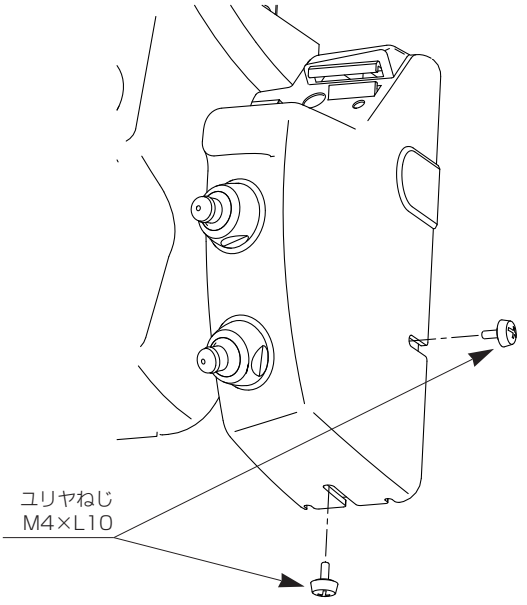




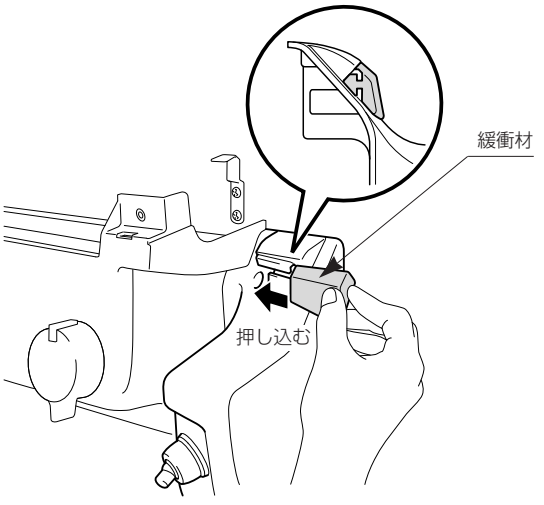
⑧下アームをカウンター固定金具に1か所ねじ固定します。（左右各1か所）



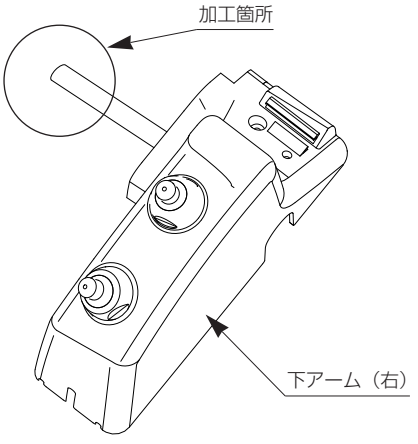
⑨下アームをユリヤねじにて下アーム固定金具へ固定します。
（左右各2か所）



⑩緩衝材を取り付けます。
（左右各1か所）
（注）緩衝材には左右があります。
間違えないように取り付けてください。

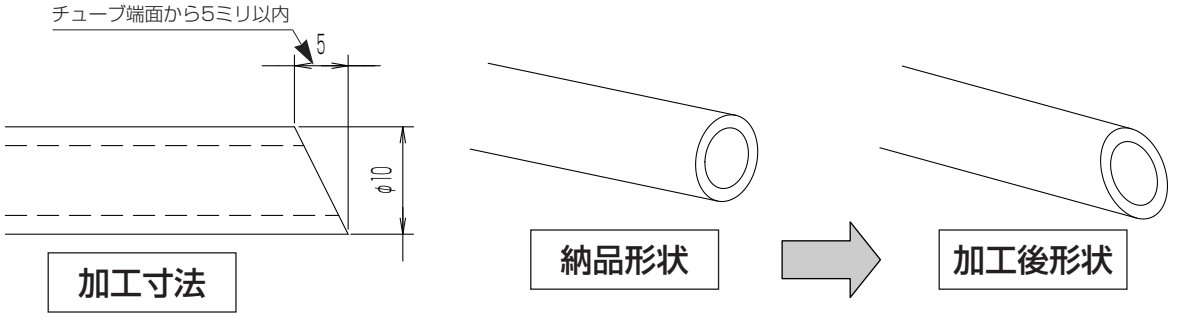


⑪下アームのチューブをワンタッチ継手に差し込む際に、水栓金具の吐水管が近い位置にあるため、差し込みにくい場合があります。以下の加工をすることで差し込みやすくなりますので、開梱されましたら下記要領で追加加工をお願いします。
（注）加工依頼箇所は下アーム（右）のチューブ先端になります。（左側は加工しないでください）



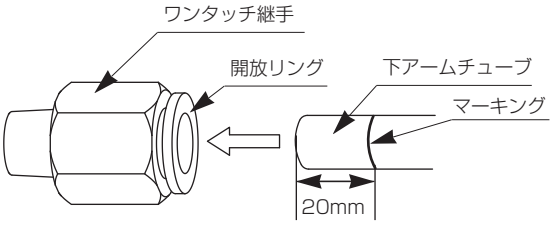
⑫カッターを用いてチューブ先端を、下記の様に斜めに切り落としてください。加工後、端面をきれいにしてください。切りクズ等は除去してください。

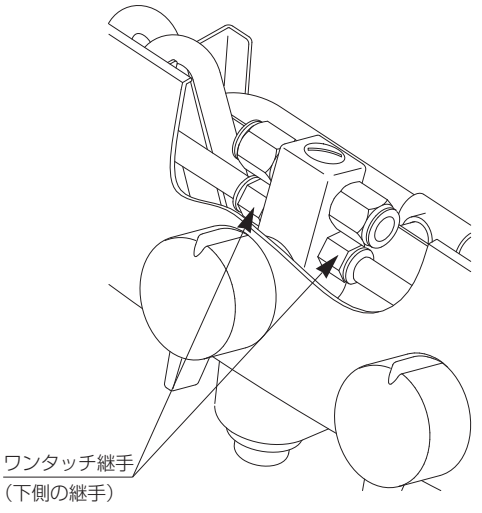
（注）加工は下記寸法内に必ず収めてください。寸法より大きく加工してしまった場合は一旦、チューブ端面を平行に切り落としてから再加工してください。
（チューブ長さは調節してあり、あまり長さには余裕がありませんので、再加工は最小限に行ってください。）

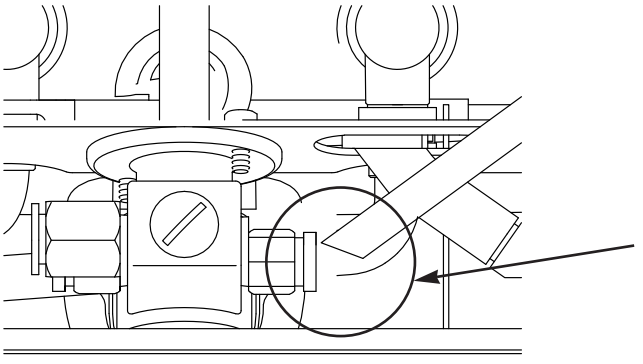


⑬下アームのチューブをカウンター内のワンタッチ継手（下側）に差し込みます。（左右とも）
チューブの長さは調節されていますので、そのまま接続してください。
下アームチューブ端面から20mmの位置にマーキングし、開放リング端面までマーキング部をしっかり押し込みます。

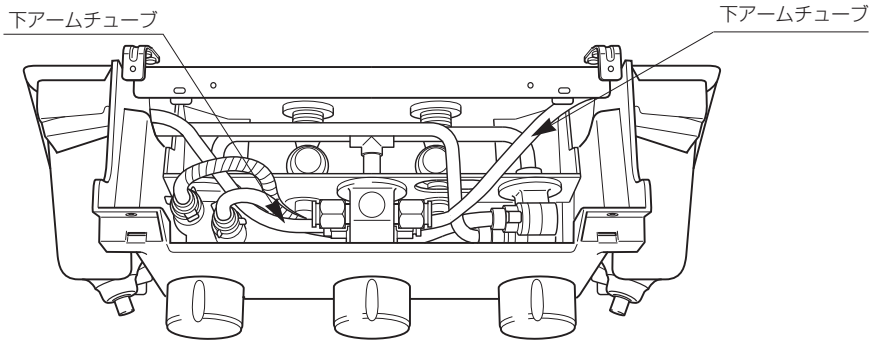
（注）チューブは継手の奥までしっかりと押し込んでください。奥まで押し込まれていないと漏水の原因となります。







継手に対して図の様な角度で差し込んでください。
差し込みやすくなります。



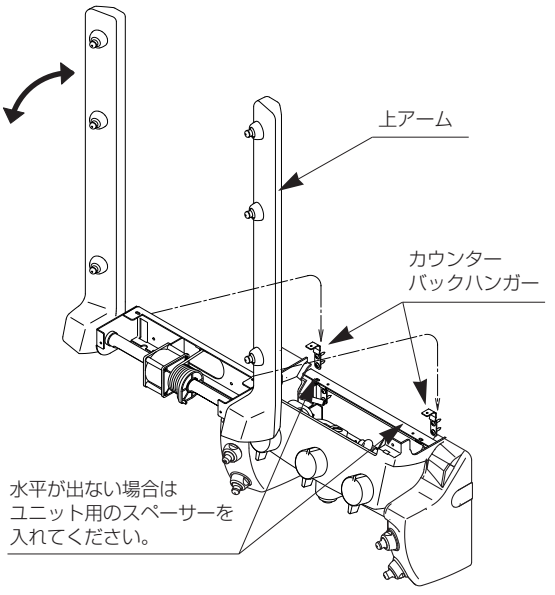
下アームチューブ収まり図

10. 上アームの取付け

①上アームをカウンターバックハンガーに引っ掛けます。

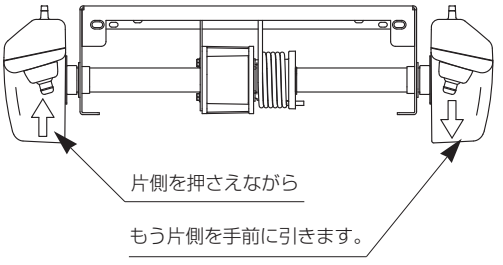
（注1） 上アームは回転します。取り付ける際はアームが不用意に回転しないよう注意して作業してください。

（注2） 片側のアームだけを持って上アームを取り付けたり、梱包箱から取り出したりしないでください。アームが左右同時に壁に接地しない（段違い）等の原因になります。



⚠ 注意

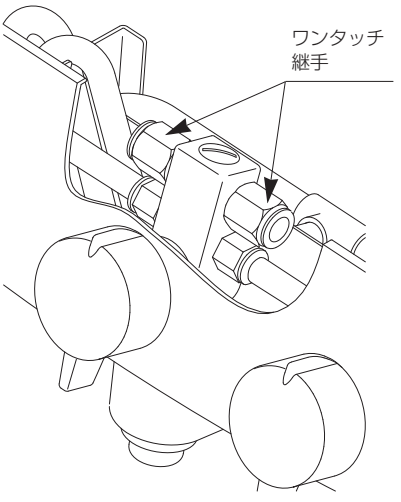
上アームを壁に立て掛けたときに左右のアームのストッパーが壁に同時に接地するか確認してください。もし、段違いになっている場合は、片側のアームを押さえながら、もう片方のアームをゆっくり前後させて位置を合わせてください。

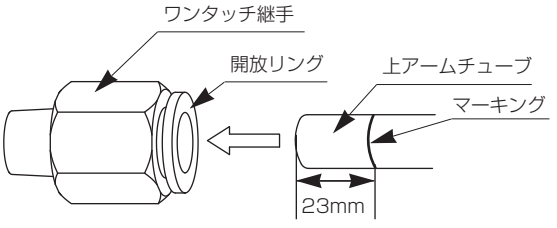


②上アームのチューブをカウンター内のワンタッチ継手（上側）に差し込みます（左右とも）。チューブは長さは調節してありますのでそのまま接続してください。
上アームチューブ端面から23mmの位置にマーキングし、開放リング端面までマーキング部をしっかりと押し込みます。

（注1） チューブを接続する際に、チューブを折らないように注意してください。

（注2）チューブは継手の奥までしっかりと押し込んでください。奥まで押し込まれていないと漏水の原因となります。

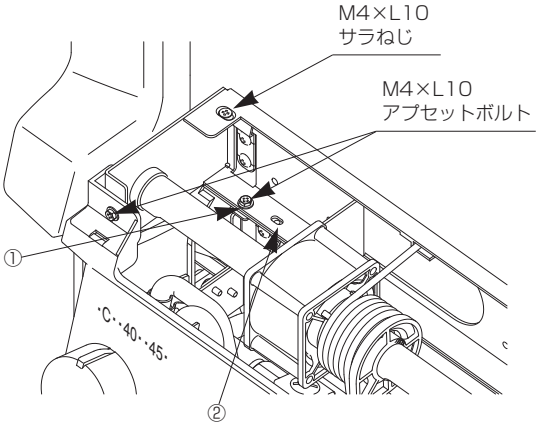




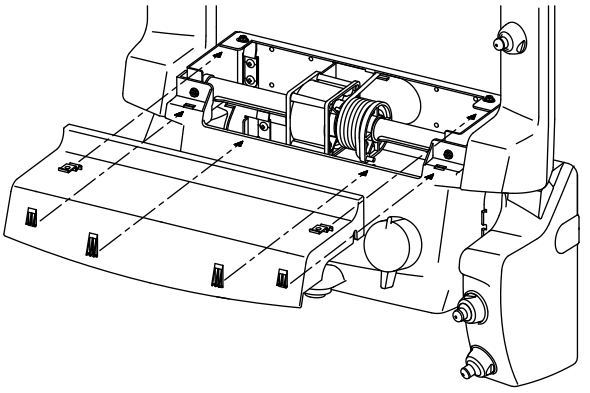
③図の箇所をねじにて固定します。
左右各3か所（計6か所）を固定します。

（注1） ねじは指定箇所すべてを確実に締めてください。締忘れがあるとガタつきの原因となります。

（注2） ①に固定できない場合は②の穴を使用して固定してください。



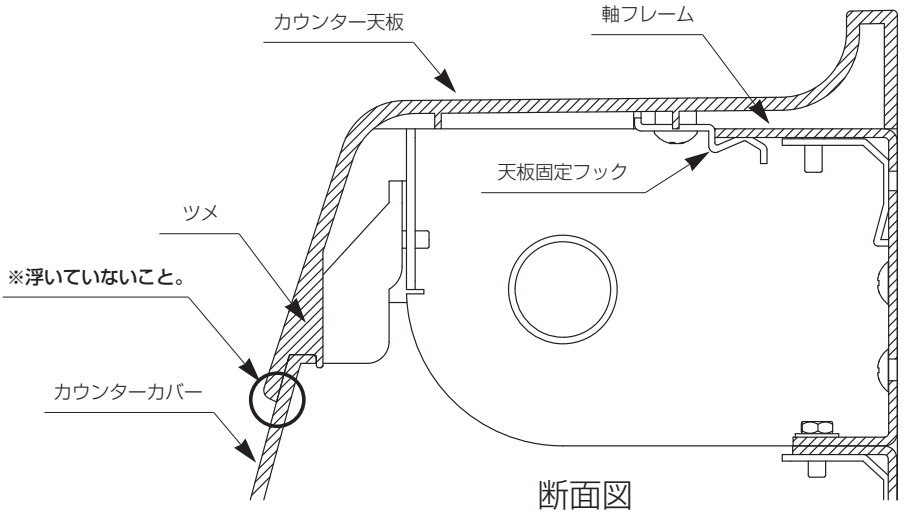
④カウンター天板を取り付けます。天板裏の金具を軸フレームの平部に正面からまっすぐに滑りこませて、前部のツメをカウンター本体に入れ込みます。



（注1） カウンター天板はまっすぐに（直線的に）取り付けてください。斜め方向からはめて力を加えるとカウンター天板が破損する恐れがあります。

（注2） カウンター天板が奥まで入らない場合は手前を軽く持ち上げながら奥まで差し込んでください。

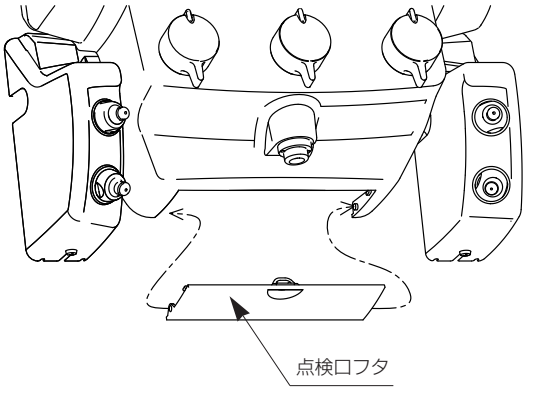
（注3） カウンター天板のツメ（4か所）が確実にカウンターに入っていることを確認してください。
取付後、カウンター天板の前板部を手で押し上げてみて、浮いたり、すぐ外れたりしないことを確認してください。



断面図

11．点検口フタの取付け

①カウンターに点検口フタを取り付けます。
カウンター側のヒンジピンに点検口フタの受け穴を合わせます。
取付後、点検口フタを閉じておいてください。



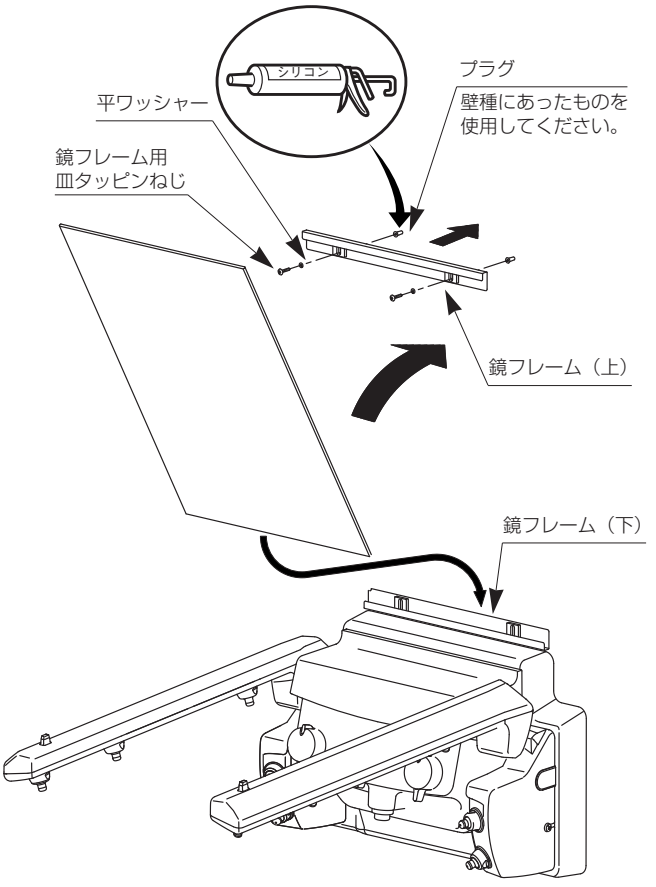
12．鏡の取付け（オプションを選択した場合のみ）

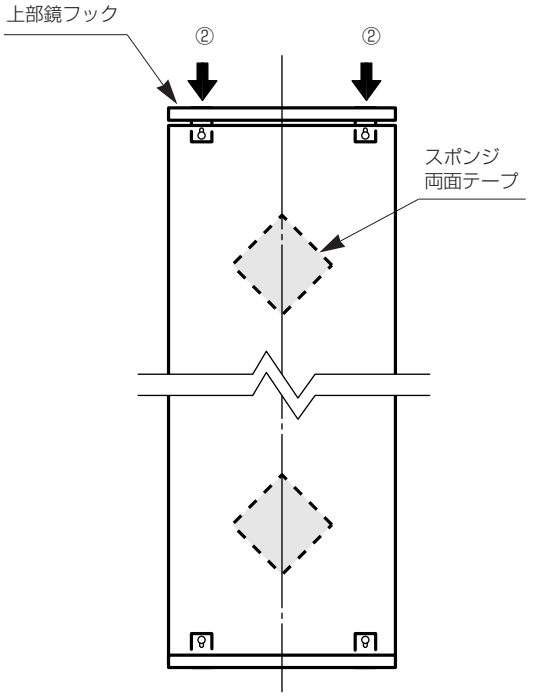
①P.10「7．器具取付位置図」を参照して、鏡フレーム（下）を壁に取り付けてください。取付けにはトラスタッピンねじを使用してください。

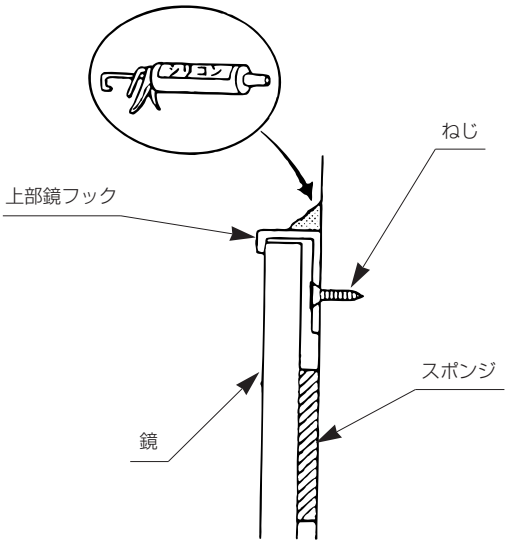
②同様に鏡フレーム（上）を取り付けます。下穴にプラグを差し込みシリコンを充てんし、固定します。取付けには皿タッピンねじを使用してください。

③鏡を鏡フレーム（下）に取り付け、垂直に立てた状態で鏡フレーム（上）を降ろして鏡を固定します。その際、鏡裏のスポンジ両面テープのはく離紙をはがし、図のように◇の向きに鏡裏に張り付けます。

④鏡フレーム（上）と壁パネルの間をシリコンシーリングします。







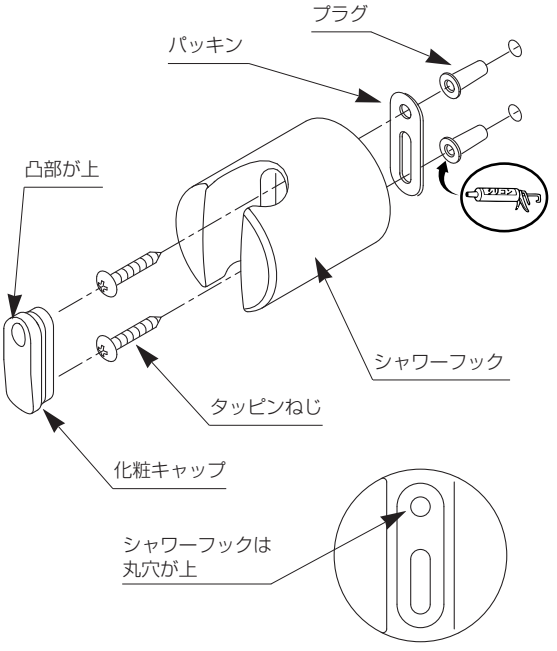
13．ハンドシャワーの取付け

シャワーフックを壁に取り付けます。P.10「7．器具取付位置図」を確認して穴開口してください。
（シャワーフックの取付位置はシャワー・ド・バス本体の取付位置やお客さまのお好みにより適宜修正してください。）

①パッキンのはく離紙をはがし、シャワーフックの裏面に張り付けます。

②シャワーフックの向きを確認してねじで固定します。

③化粧キャップを取り付けます。

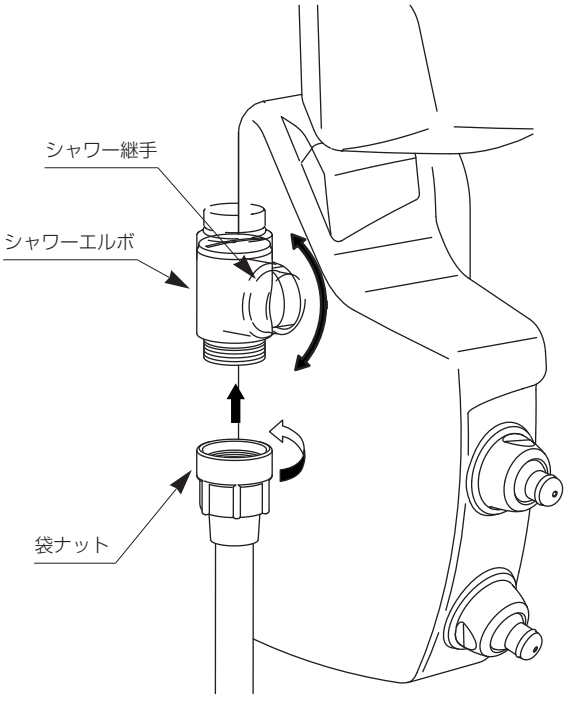


④シャワーエルボが上下180度の範囲で回転できるようにシャワー継手にねじ込みます。一旦、最後までねじ込み、その後一回転以内で戻してください。

（注）シャワーエルボを戻しすぎると漏水またはエルボ脱落の原因となります。

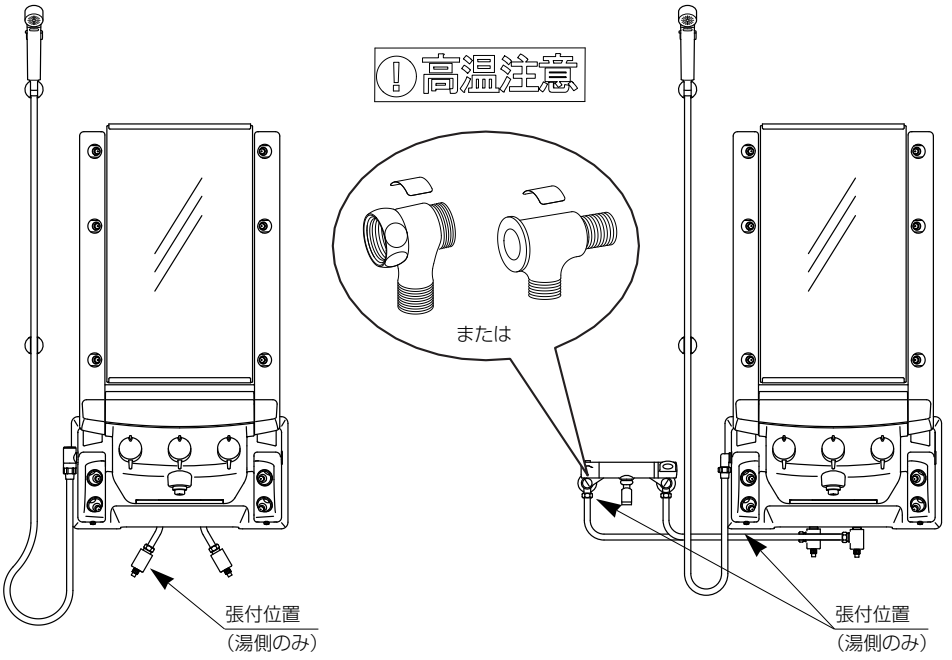
⑤シャワーホースとシャワーエルボの接続を手締めでしっかりと固定します。

（注）必ず手で締め付けてください。工具を使用するとシャワーホースの袋ナットにキズがつく恐れがあります。



14．高温注意シールの張付け

シャワー・ド・バス本体に同梱されている、「高温注意！シール」を「湯」側の接続配管（フレキ管等）に張ってください。仕様によって張付位置や数が異なりますので下図を参照して張ってください。

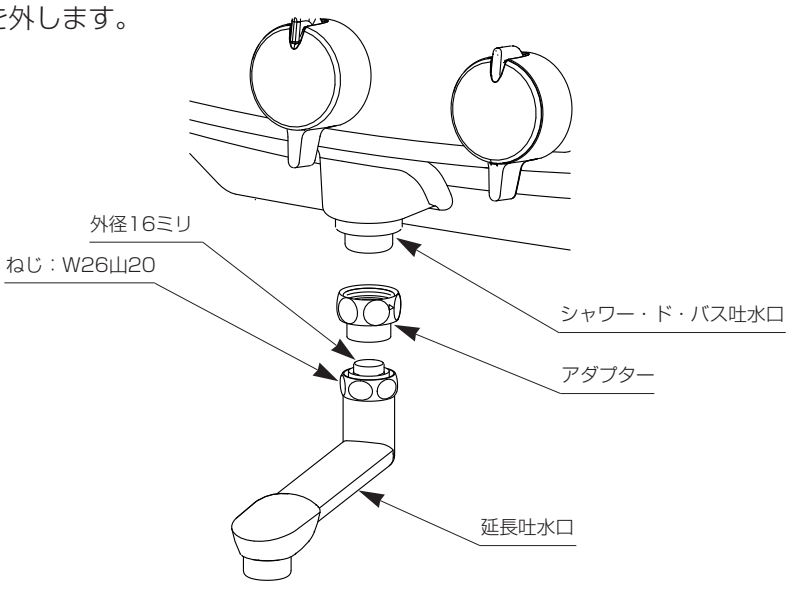


（注）シールは配管接続後に、表から見える位置に張ってください。

15．延長吐水口の取付け

延長吐水口をお使いになる場合は、下記の要領で取付けを行ってください。

①シャワー・ド・バスの吐水口を外します。
②アダプターを取り付けます。
③延長吐水口を取り付けます。



⚠注意

延長吐水口は必ず、外径16ミリ、W26山20の吐水口を使用してください。
上記以外の吐水口の場合、アダプターに取り付かない恐れがあります。

16. 吐水温度の確認・調節

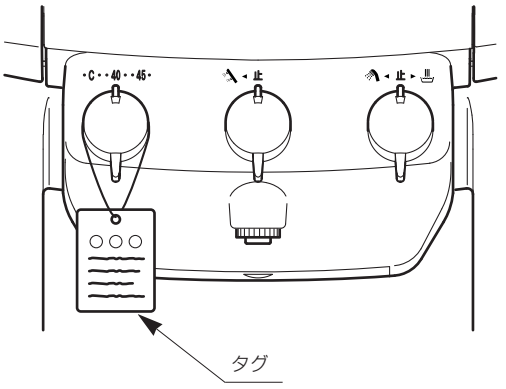
①給湯器の温度設定

給湯器の給湯温度を設定します。

（注1） 給湯温度は使用する最高温度より10℃高く設定してください。

（注2） 給湯温度が変わると温度調節ハンドルの設定がずれて、表示通りの温度が出なくなります。

（注3） 給湯温度の設定を確認できない場合は、同梱のタグをハンドルに付けてください。



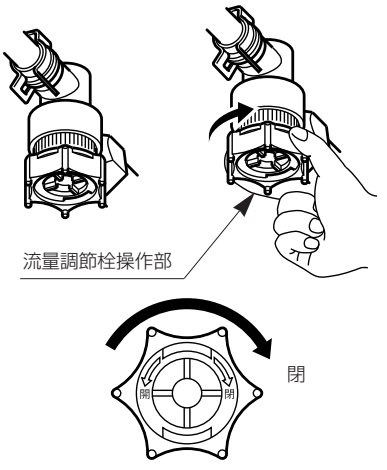
②流量の調節

水圧が0.20MPa {2kgf/cm²} を超える場合は水側（青）と湯側（赤）の流量調節栓を次の要領で調節してください。

(1) 温度調節ハンドルを「C」側いっぱいに回し、ハンドシャワー／カラン吐水切替ハンドルをカラン吐水側で全開にします。

(2) 手で水側（青）の流量調節栓の操作部を回し、流量を20L/分程度（洗面器をいっぱいにするのに約10秒弱）に調節します。

(3) 温度調節ハンドルの表示ボタンを「40」に合わせ、湯側（赤）の流量調節栓を流量が20L/分程度になるように調節します。

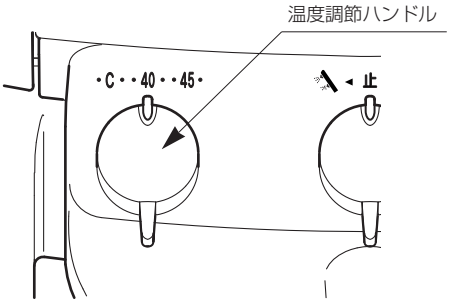


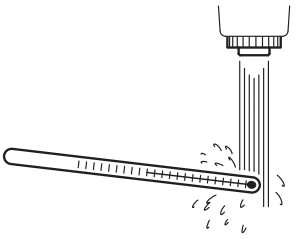
③吐出温度の確認

温度調節ハンドルは工場で設定していますが、使用条件（給水・給湯圧力、給湯温度）が異なると表示通りの温度がでないときがあります。吐出温度が表示通りになっているか以下の要領で確認してください。

(1) 温度調節ハンドルの表示ボタンを「40」に合わせ、吐水口から全開で吐出します。

(2) 吐出温度を確認し、40℃であればそのままご使用できます。吐出温度が40℃からずれている場合は④の「温度調節ハンドルの設定」の項を参照に、温度調節ハンドルを設定し直してください。





④温度調節ハンドルの設定

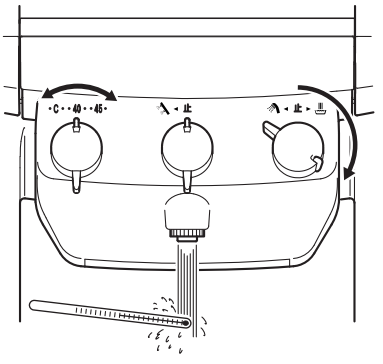
温度調節ハンドルの示す温度と吐出温度が合わなくなった場合は、以下の要領で調節してください。

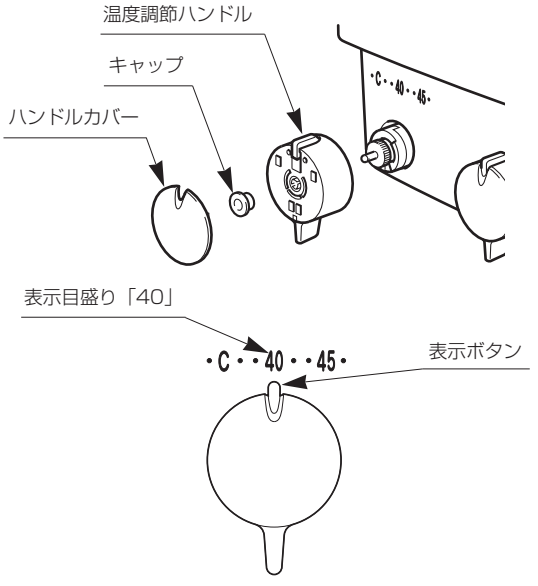
(1) 調節の前に次のことを確認します。
- 湯側と水側の流量調節栓が十分開いていますか？
- 湯側と水側のストレーナーは詰まっていませんか？
- 使用する温度より10℃以上高い温度のお湯がきていますか？

(2) 全開吐出し、吐水口から出るお湯の温度を温度目盛に関係なく40℃になるように温度調節ハンドルを回します。

(3) 吐出温度が40℃になったところで止水し、温度調節ハンドルが回転しないように注意して、キャップ、スリーブを外し、温度調節ハンドルを抜き取ります。

(4) 抜き取った温度調節ハンドルの表示ボタンが温度表示カバーの「40」に合うように温度調節ハンドルをはめてスリーブを押し込み、キャップを取り付けます。

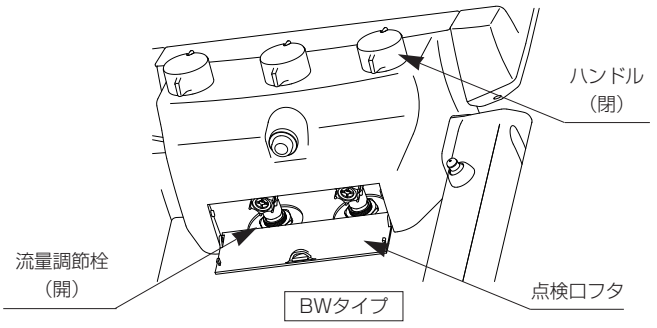




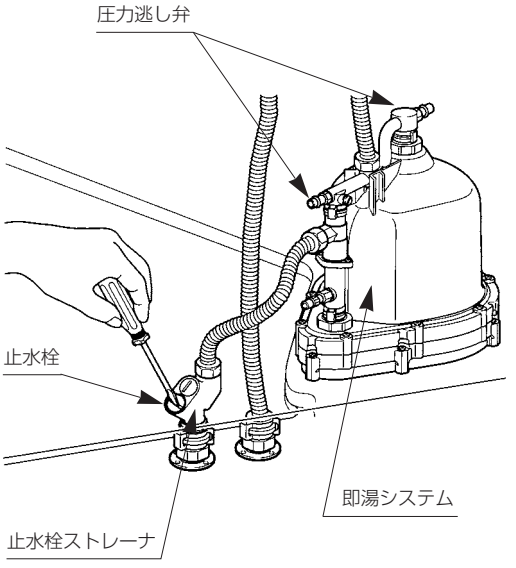
17．給水給湯管の耐圧試験

耐圧試験を実施する場合は、下記内容をよくお読みください。
（ユニットバスへの設置の場合は、即湯システムの有無によって試験の方法が異なります。）

●即湯システムがないユニットバスの場合
・水栓金具のハンドルを「閉」として、給水/給湯配管で同時に耐圧試験（1.72MPa）を行ってください。流量調節栓は閉めないでください。必ず「開」にして実施してください。



●即湯システムを搭載しているユニットバスの場合
・水栓金具のハンドルを「閉」として下記①②の手順でそれぞれ実施してください。流量調節栓は閉めないでください。必ず「開」にして実施してください。
①即湯システム手前の止水栓付きストレーナの止水栓を「閉」にして、給水/給湯配管の耐圧試験（1.72MPa以下）を行ってください。
②即湯システム手前の止水栓付きストレーナの止水栓を「開」として、給水/給湯配管の耐圧試験（0.8MPa以下）を行ってください。
※即湯システムは労働安全衛生法に従い使用圧力を1MPa以下とするため、圧力逃し弁を取り付けています。そのため、直接0.8MPa以上を印加すると圧力逃し弁が作動（開）します。



18．取付後の点検

下記項目を点検して取付けが正常に終了したことを確認してお客さまへお引渡しください。

①ノズルキャップは全て締められているか確認してください。
②シャワー・ド・バス全体を目視し、傾きや収まりのおかしな箇所がないか確認してください。
③アームやカウンター等外装部品をかるくゆすってみてガタつきがないか確認してください。
④吐水口、ハンドシャワー、全身シャワーの順番で通水し、異常がないか確認してください。
※流量調節栓が閉じていると湯水が出ませんので開いていることを確認してください。
⑤Wタイプの場合、アジャスターの緩みやロックナットの緩みがないか確認してください。
⑥水抜きの方法、ストレーナーの掃除方法は取扱説明書をご覧ください。
⑦浴室の掃除をお願いします。特に鋼板パネル等の穴あけを行った場合は、加工クズを確実に洗い流してください。もらいサビで床が変色する恐れがあります。
⑧水抜き栓が閉っているか確認してください。

株式会社 LIXIL

商品・取付方法についてのお問い合わせは、お客さま相談センターへ
ナビダイヤル　☎0570-017-173
受付時間　平日　9：00～18：00　　土日・祝日　9：00～17：00
（ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く）

品番　PPB-0090(13023)